K-583

米沢市埋蔵文化財調査報告書　第92集

遺跡詳細分布調査報告書

第20集

住宅開発分布調査

大規模開発関係分布調査

窪田元屋敷遺跡発掘調査

2007

米沢市教育委員会

米沢市埋蔵文化財調査報告書　第92集

遺跡詳細分布調査報告書

第20集

住宅開発分布調査

大規模開発関係分布調査

窪田元屋敷遺跡発掘調査

2007

米沢市教育委員会

序　　文

本報告書は、米沢市教育委員会が平成18年度に、国庫補助事業として実施した「遺跡詳細分布調査」の成果をまとめたものです。

米沢市教育委員会は、埋蔵文化財の周知を図るため、遺跡詳細分布調査を平成元年から継続して実施しております。調査を重ねることは、歴史の解明と埋蔵文化財の保存保護につながります。

今年度の遺跡詳細分布調査では、集合住宅開発関係の花沢Ａ遺跡、個人住宅開発として、窪田元屋敷遺跡の発掘調査を実施しました。また大規模開発に係る試掘調査等を実施し、街道西下遺跡を新規に発見することができました。

本年度も調査の成果を上げることができましたことは、関係各位のご理解とご協力の賜ものと感謝申し上げるとともに、今後とも開発事業に対し、円滑な調整を図り可能な限り力を注いでいく所存であります。

最後になりましたが、調査に際しご指導を賜りました文化庁、山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室をはじめ、地権者各位並びに地元の皆様に対し、衷心よりお礼申し上げます。

平成19年３月

米沢市教育委員会

教育長　舛　田　忠　雄

例　　言

1　本報告書は、文化庁の補助を受けて実施した、平成18年度の遺跡詳細分布調査報告書である。

2　調査は米沢市教育委員会が実施した。

3　調査期間　平成18年３月10日から平成19年２月28日

4　調査体制は下記のとおりである。

調 査 主 体　米沢市教育委員会
調 査 総 括　村野隆男　(教育管理部文化課長)
調 査 担 当　手塚　孝　(教育管理部文化課文化財主査)
調 査 主 任　菊地政信　(教育管理部文化課文化財担当主査)
調査参加者　近野慶子　　安部和宏　佐藤守男
　　新藤伊勢夫　丸山忠俊　渡部　惇
事 務 局 長　佐藤孝市（教育管理部文化課長補佐）
事　務　局　青木千尋（教育管理部文化課文化財担当主事）
調 査 指 導　文化庁・山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室

5　挿図の縮尺は、第Ⅰ節の第１～23図は１万分の１で、ドット部分が調査箇所である。第24図～43図は、実線で囲った部分が調査箇所である。

第Ⅱ節は、挿図毎にスケールで示した。第１節の挿図は上部が磁北を示しており、第Ⅱ節～第Ⅳ節は各挿図に示した。挿図内の図化及び記号は、ＴＹ－柱穴、ＤＹ－土廣、Ｐ－ピット、Ｔ－トレンチを示す。

6　出土遺物は、米沢市埋蔵文化財資料室（米沢市花沢一丁目４-21番地）一括保管している。

7　本書の作成は、菊地政信が担当し、近野慶子が補佐した。全体について手塚孝が総括した。

8　調査にあたって、内藤克久・株式会社ヤマザワの各氏及び関係各位のご協力を得た。記して感謝申し上げます。

本　文　目　次

序　文

例　言

第Ⅰ節　埋蔵文化財調査経過

①　開発に伴う遺跡の確認調査 …… 1

②　周知の遺跡に関わる試掘調査 …… 2

(1)舘山平城、(2)生蓮寺遺跡、(3)小野川ａ遺跡 …… 2

(4)花沢Ａ遺跡 …… 3

(5)米沢城跡 …… 4

(6)中ノ目遺跡 …… 4

(7)台ノ上遺跡 …… 4

(8)長泉寺遺跡 …… 5

(9)下花沢ａ遺跡 …… 5

(10)東屋敷遺跡 …… 5

(11)馬場館遺跡 …… 6

(12)大浦Ａ遺跡 …… 6

(13)竹井遺跡 …… 6

(14)野際遺跡 …… 7

(15)東大通一丁目遺跡 …… 7

(16)松原遺跡 …… 7

(17)万世舘山城、梓山ａ遺跡 …… 8

(18)窪田元屋敷遺跡 …… 8

(19)三合免館遺跡 …… 8

(20)台坂遺跡 …… 9

(21)上沖館遺跡 …… 9

(22)潜清水ｂ遺跡 …… 9

(23)公共事業に伴う試掘調査 …… 11

③　大規模開発に伴う試掘調査 …… 12

第Ⅱ節　窪田元屋敷遺跡の発掘調査 …… 23

1　遺跡の概要 …… 23

2　調査の経過 …… 23

3　検出遺構 …… 24

4　出土遺物 …… 24

5　まとめ、参考文献 …… 27
報告書抄録 …… 28

付　表　目　次

第１表　包蔵地内分布調査箇所 …… 10
第２表　公共事業関連分布調査箇所 …… 10
第３表　大規模開発分布調査箇所 …… 10

挿　図　目　次

第１図　舘山平城跡、生蓮寺遺跡試掘箇所位置図 …… 2
第２図　小野川ａ遺跡試掘箇所位置図 …… 2
第３図　花沢Ａ遺跡試掘箇所位置図 …… 3
第４図　米沢城跡試掘箇所位置図 …… 4
第５図　中の目遺跡試掘箇所位置図 …… 4
第６図　台ノ上遺跡試掘箇所位置図 …… 4
第７図　長泉寺遺跡試掘箇所位置図 …… 5
第８図　下花沢ａ遺跡試掘箇所位置図 …… 5
第９図　東屋敷遺跡試掘箇所位置図 …… 5
第10図　馬場館遺跡試掘箇所位置図 …… 6
第11図　大浦Ａ遺跡試掘箇所位置図 …… 6
第12図　竹井遺跡試掘箇所位置図 …… 6
第13図　野際遺跡試掘箇所位置図 …… 7
第14図　東大通一丁目遺跡試掘箇所位置図 …… 7
第15図　松原遺跡試掘箇所位置図 …… 7
第16図　万世舘山城跡、梓山ａ遺跡試掘箇所位置図 …… 8
第17図　窪田元屋敷遺跡試掘箇所位置図 …… 8
第18図　三号免館遺跡試掘箇所位置図 …… 8
第19図　台坂遺跡試掘箇所位置図 …… 9

第20図　上沖館遺跡試掘箇所位置図 …… 9
第21図　潜清水ｂ遺跡試掘箇所位置図 …… 9
第22図　台坂、下花沢ｂ、花沢Ａ、佐氏泉遺跡試掘箇所位置図 …… 11
第23図　堤屋敷遺跡試掘箇所位置図 …… 11
第24図　万世町片子地内位置図 …… 13
第25図　万世町片子地内トレンチ配置図 …… 13
第26図　徳町地内位置図 …… 14
第27図　徳町地内トレンチ配置図 …… 14
第28図　矢来三丁目地内位置図 …… 15
第29図　矢来三丁目地内トレンチ配置図 …… 15
第30図　大字川井字道下地内位置図 …… 16
第31図　大字川井字道下地内トレンチ配置図 …… 16
第32図　大字芳泉町地内位置図 …… 17
第33図　大字竹井地内位置図 …… 17
第34図　窪田町小瀬字原田二地内位置図 …… 18
第35図　窪田町小瀬字原田二地内トレンチ配置図 …… 18
第36図　塩井町塩野地内位置図 …… 19
第37図　塩井町塩野地内拡張区確認遺構平面図 …… 19
第38図　大字花沢地内位置図 …… 20
第39図　相生町地内位置図 …… 20
第40図　福田町一丁目地内位置図 …… 21
第41図　街道西下遺跡（新発見）試掘箇所位置図 …… 21
第42図　窪田元屋敷遺跡位置図 …… 23
第43図　窪田元屋敷遺跡遺構全体図 …… 24
第44図　窪田元屋敷遺跡他出土遺物実測図 …… 25

図　版　目　次

第１図版　窪田元屋敷遺跡の発掘（調査風景・遺構全景）
第２図版　窪田元屋敷遺跡の発掘（ＤＹ５東方部壁立ち上がり状況・ＤＹ１土師器出土状況）
第３図版　窪田元屋敷遺跡の発掘（ＤＹ４半裁状況・ＤＹ４完掘状況）

第Ⅰ節　埋蔵文化財調査経過

1　開発に伴う遺跡の確認調査

平成18年度、本市教育委員会に、住宅開発等によって埋蔵文化財に係わることから、協議や分布調査等の確認依頼を受けたのは、平成19年２月27日現在で54件あった。

この中で、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）及び包蔵地以外を含め、試掘調査、立会い調査、現地確認調査を実施した内訳は下記のとおりである。

（１）住宅建設に係わるもの　26件　（２）店舗・事務所建設に係わるもの　４件
（３）工場・倉庫等に係わるもの　７件　（４）砂利採取に係わるもの　１件
（５）宅地開発等に係わるもの　６件　（６）その他の開発等に係わるもの　７件
（７）公共事業等に係わるもの　３件

この中で試掘調査（立会い調査含）を実施したのは46件あり、種別としては例年と同様、住宅開発に係わるものが大半を占めており、次いでその他の開発、公共事業等に係わるものであった。上記の包蔵地内分布調査箇所については、大規模開発と区別し調査箇所・調査月日・開発種別・調査方法を表１に一括し、遺跡位置図と調査地点を第１～22図にまとめた。

今年度の包蔵地内分布調査によって遺構・遺物等が確認されたため、発掘調査に至ったのは、個人住宅関係の窪田元屋敷遺跡があり、第Ⅱ節で記述する。また花沢Ａ遺跡では、集合住宅の建設に伴う発掘調査を実施した。この調査は、発掘調査に必要な経費の一部を事業者に負担してもらう受託事業として米沢市教育委員会と事業者が契約を締結して行った。調査結果は、米沢市埋蔵文化財調査報告書第91集として作成した。

包蔵地内分布調査の依頼は、39件であった。個人の住宅に関係するのが大半であり、小範囲の試掘であった。遺物が出土したのは、第８図の下花沢ａ遺跡の試掘箇所がある。

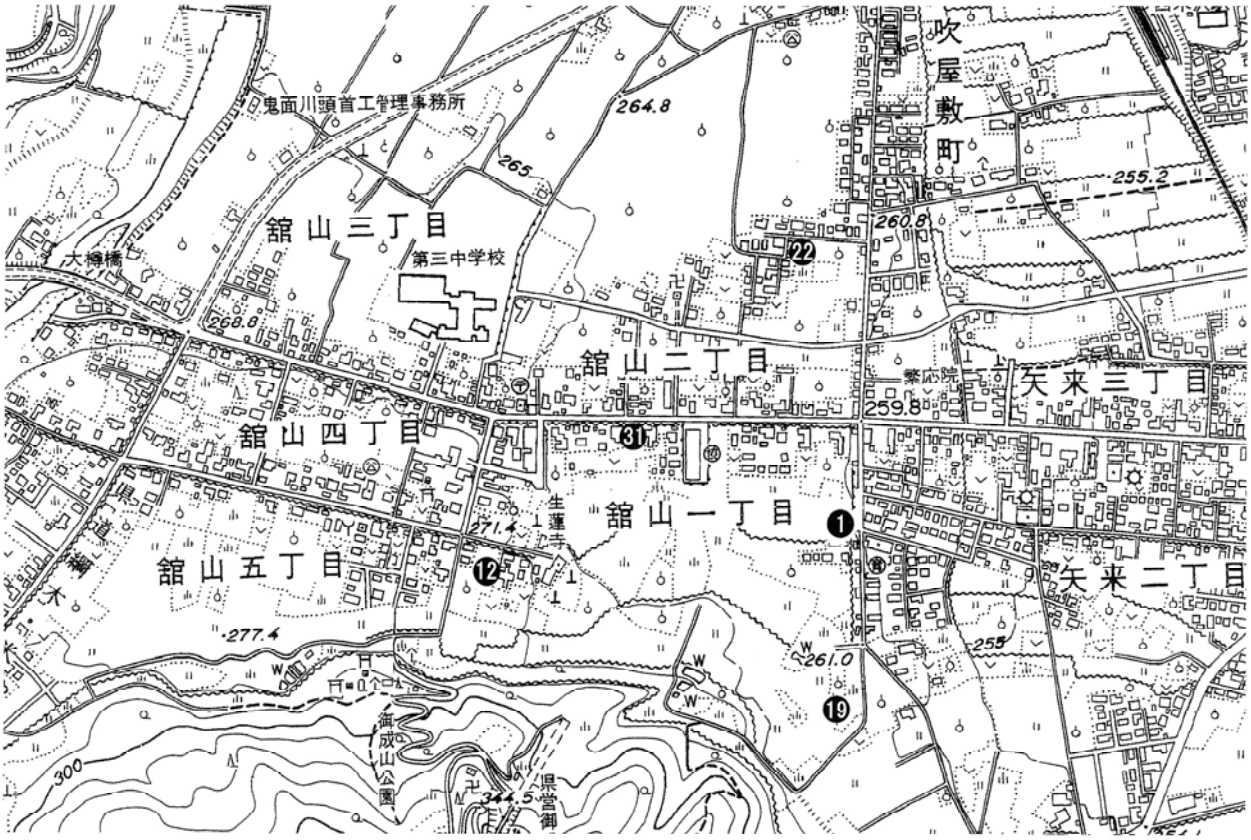
その他の調査箇所においては、遺物は確認されなかった。遺構に関しては、後世の削平や撹乱による消滅等が認められた。これは、米沢市内に点在する遺跡であることや、現在の家を解体し、同じ箇所に建設する場合が多いことが、要因のひとつにあげられる。

米沢駅前を中心に分布する花沢Ａ遺跡や、下花沢ａ遺跡に試掘箇所が多いのが今年度の傾向であり、昨年度まで最も集中していた米沢城跡周辺が僅か２箇所と減少した。また、社殿の建設や工場用地造成は、近年になかった事業である。また、東北中央自動車道建設に関連して鉄塔の立替工事に伴う分布調査も実施している。さらに、分布調査までに至らなかったが、携帯電話のアンテナ工事に関する問い合わせが数件あった。

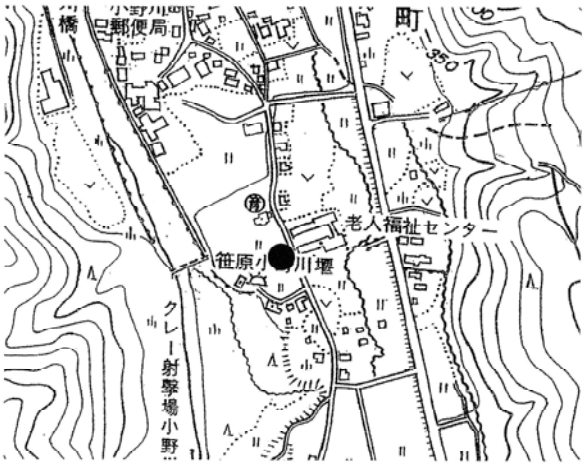
公共事業としては、下水道の埋設に伴うものや林道工事がある。下水道は昨年に引き続き工事を実施している花沢地区である。林道工事については、来年度も工事が継続されることから分布調査を予定している。

その他の開発としては、宅老所がある。新しい言葉であり、老人をあずける場所のことであり、最近増加してきた施設である。集合住宅もこの施設として利用されている場合がある。

今年度新たに確認された遺跡として、街道西下遺跡がある。大規模開発に伴う分布調査によって発見した遺跡で、中・近世の年代が想定される。



第１図　舘山平城跡、生蓮寺遺跡試掘箇所位置図



第２図　小野川ａ遺跡試掘箇所位置図

２　周知の遺跡に関わる試掘調査

⑴舘山平城跡

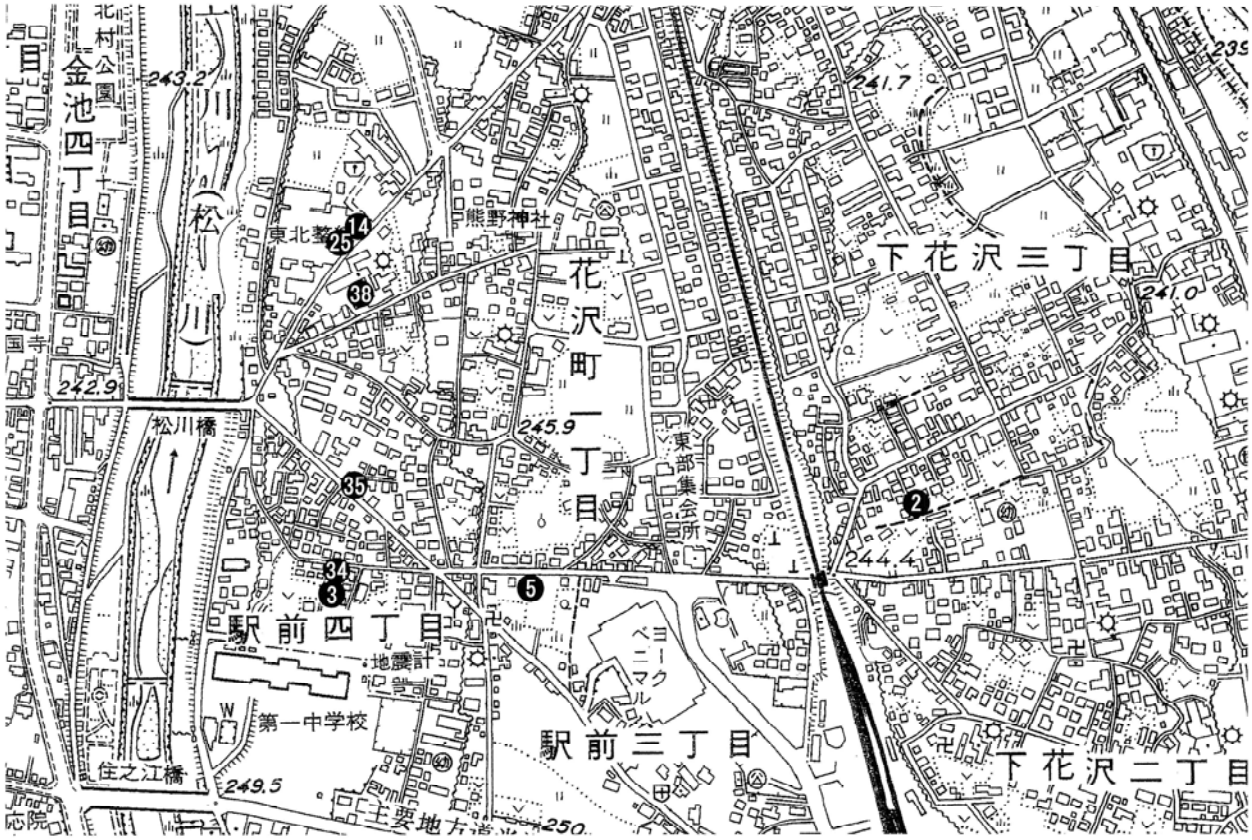
本遺跡は、市街地西方約3㎞に位置し、標高約260ｍに所在する。当該地西方1.5㎞には、標高約330ｍの舘山城跡が分布する。遺跡は東西1.2㎞、南北１㎞に分布する中世の遺跡である。個人住宅の建設に伴うものである。当該地に１ｍ×３ｍのトレンチを１本設定し調査した結果、表土下約60ｃｍが黄褐色シルトの地山層であった。遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。

⑵生蓮寺遺跡

本遺跡は、縄文時代を中心とする遺跡である。今回の調査区から小規模な溝状遺構を３基確認した。遺物は出土しなかったが、慎重工事を指示した。

⑶小野川ａ遺跡

道路より建設予定が、低いことから盛り土をして車庫を建設した箇所である。工法から遺跡には影響ないものと判断した。



第３図　花沢Ａ遺跡試掘箇所位置図

⑷花沢Ａ遺跡

本遺跡は、奥羽本線米沢駅北西約700ｍの箇所に位置する縄文時代中期末葉を中心とする遺跡である。遺跡は旧羽黒川と西側の最上川（松川）に挟まれた細長い河岸段丘に立地するもので、大半が宅地となっている。

今年度は、８箇所について届出があった。上図の丸印の箇所が試掘を実施した箇所である。丸印のわきに示した番号は、第１表の通し番号と同一であるので詳細については表を参考願いたい。

この遺跡については、1987年に試掘調査を実施し、縄文時代早期から後期までの遺物を確認している。遺構としては、土器埋設石組複式炉を伴う竪穴住居跡を２棟確認している。５番の箇所が発掘調査を実施した箇所であり、建物が建設される範囲416㎡を調査した。

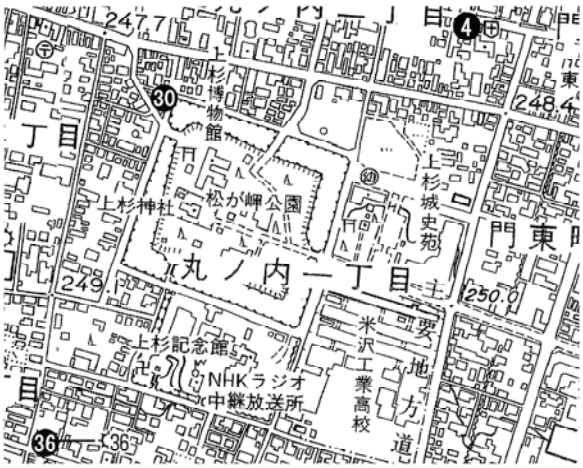
その結果、竪穴住居跡１棟、掘立柱建物跡２棟、埋設土器13基、土壙群が検出された。遺物としては「Ｃ」字状文を主体とする縄文時代中期後葉期の大木10式土器群が大半を占める。その他の調査地点においては、遺構や遺物は確認もされなかった。特に北西部は撹乱された状況を呈していた。

⑸米沢城跡

米沢市街地の南西部に位置し、現在は上杉神社が建立され、市民の憩いの場となっている。

現在残っているのは、本丸と二の丸跡の一部であるが、遺跡範囲としては三の丸跡までを包蔵地としている。４番の箇所は三の丸跡の範囲に相当する。遺構は確認されなかった。30番の箇所は車庫の増築であり、小範囲であることから現地確認とした。

36番の箇所は、広範囲でありトレンチ調査を実施した。その結果、調査にいたる遺構は確認されなかった。

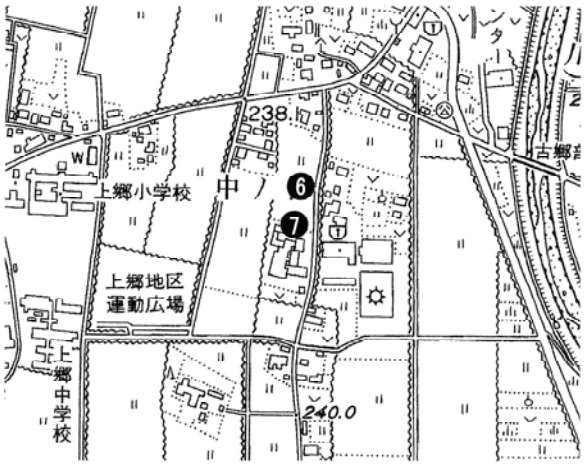


第４図　米沢城跡試掘箇所位置図

⑹中の目遺跡

中世の館跡と推測される遺跡である。工場に隣接する南側の６番は、工場の造成に伴うものであり、重機を使用して、トレンチ調査を実施したところ遺構が確認された。

協議の結果、盛土をして遺構を保存することになった。遺構は柱穴、池状遺構、溝跡が認められた。特に池状遺構は、大形の川原石を使用した形態であった。遺物は、出土しなかったが柱穴の規模から中世の年代が想定される。４番の箇所についても同様な工法で建設することになった。

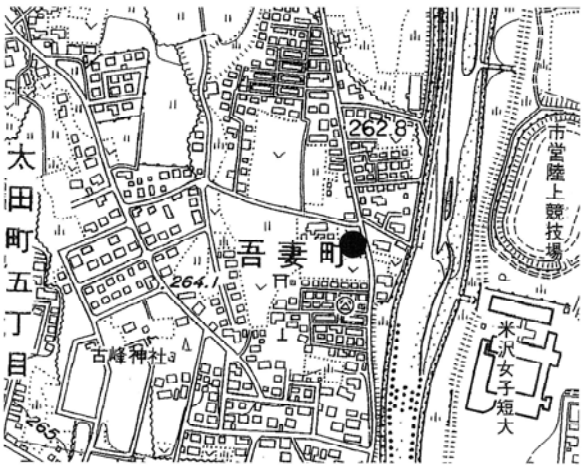


第５図　中の目遺跡試掘箇所位置図

⑺台ノ上遺跡

遺跡が分布する台地は、旧松川によって形成された細長い自然堤防上に立地する。この地形は旧松川が東西に分かれて流れたことによって形成された台地であり、当時は川が台地を囲む様に左右に流れる環境にあったと推測される。

今回届け出があった箇所は、遺跡範囲の南東に位置する。住宅の建設に伴うものであり、手掘りで試掘を実施した結果、遺構、遺物は認められなかったが、遺跡範囲であり慎重工事を指示した。



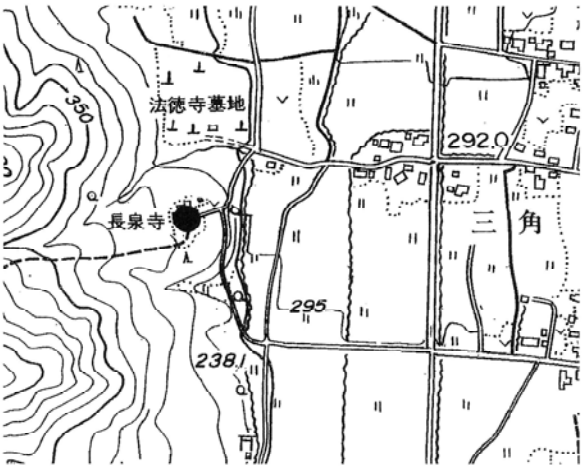
第６図　台ノ上遺跡試掘箇所位置図

⑧長泉寺遺跡

本堂の建設に伴うものである。米沢市の南西部郊外に位置する。寺は山麓にあり、この場所からは当市が一望できる。

試掘の結果、予定地は盛土が１ｍにも達することから判断すれば、中腹を削ることによって平坦地を整地したと考えられる。

この盛土からは遺物は出土しなかった。近くには水が湧き出しており、池もつくられている。



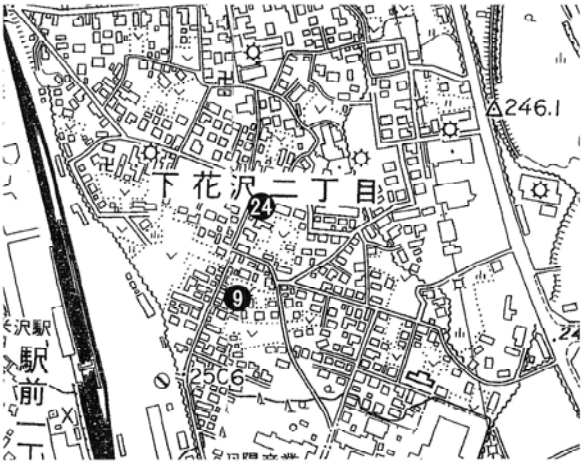
第７図　長泉寺遺跡試掘箇所位置図

⑨下花沢ａ遺跡

この遺跡範囲においては、２箇所の届出があった。遺跡は米沢駅の東側一帯に位置する。24番は集合住宅の建築であり、基礎工事の際は深く掘り下げることから、建設範囲については重機を使用してトレンチ調査を実施した。

遺物としては、第43図６が出土している。米沢市田沢地区の戸長里窯跡で使用した、窯道具１点が認められた。

９番も含め遺構は認められなかったが遺跡範囲であり、慎重工事を指示した。



第８図　下花沢ａ遺跡試掘箇所位置

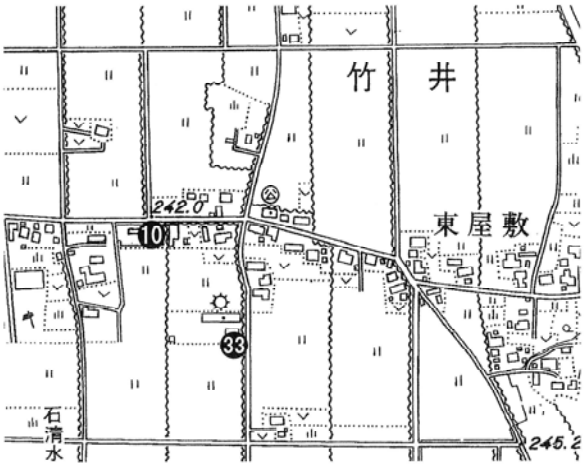
⑩東屋敷遺跡

本遺跡は、市街地北東約2.5㎞に所在する。平成８年に遺跡の中心地が宅地開発に伴う発掘調査を実施している。

調査の結果、掘立建物跡、方形に掘られた溝跡を確認している。

今年度は、２箇所について届出があった。北方の33番は住宅建設に伴うものであった。トレンチを配して、試掘を実施したが遺構、遺物は認められなかった。

10番は車庫建設に伴うものである。同様にトレンチを配し試掘を実施したが遺構、遺物は認められなかった。

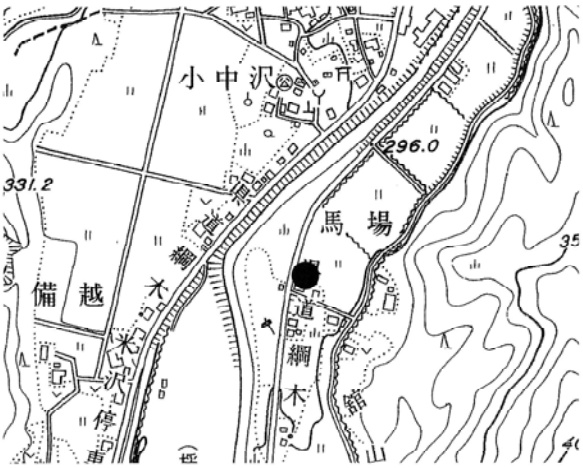


第９図　東屋敷遺跡試掘箇所位置図

⑾馬場館遺跡

米沢市街地5.7㎞南西を流れる大樽川南岸山麓に位置する。現状は水田や宅地となっている。この館跡の東側山頂には、大規模な赤芝山城がある。この山城に関連する平地の施設と考えられる、馬場館跡の西側500ｍには、角屋敷跡、南側１キロには化物屋敷跡がある。

今回の試掘地点は県道に面する箇所である。盛土をして整地しており、工事によって削平する深さに以上に盛土があることから、遺跡には影響ないものと判断した。

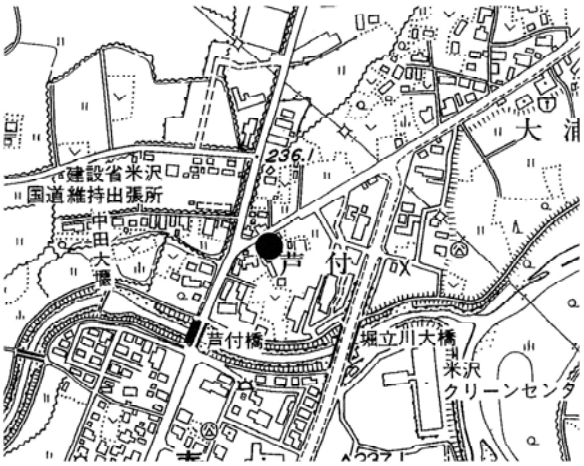


第10図　馬場館遺跡試掘箇所位置図

⑿大浦Ａ遺跡

本遺跡は、市街地から北東約２㎞に位置する大浦遺跡群のひとつで、最も西部に分布する。年代は奈良時代の中葉から末期にあたり、これまでの調査成果から置賜郡衙の有力な候補地と推定されている。

今回の試掘調査は、車庫の建設に伴うものでありトレンチ調査を実施した結果、遺構、遺物は確認されなかった。しかし、遺跡範囲であり慎重工事を指示した。



第11図　大浦Ａ遺跡試掘箇所位置図

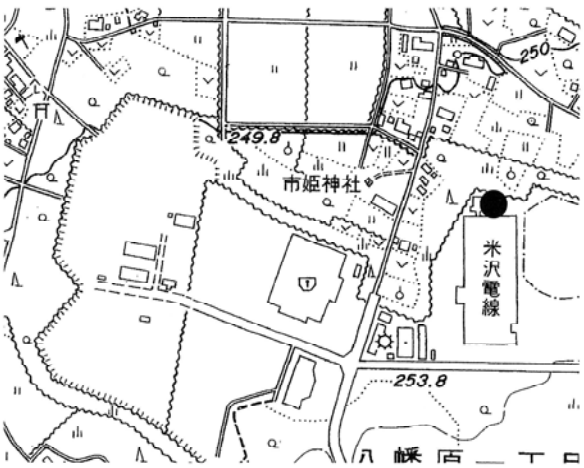
⒀竹井遺跡

米沢市東部に広がる、八幡原工業団地の北西部に位置する。遺跡は、縄文時代後期初頭が中心の遺跡であり、遺跡範囲の一部が昭和47年～50年に発掘調査が実施された。

今回の試掘調査は、会社に隣接する食堂建設に伴うものであった。会社建設地に関しては前述した様に調査は終了している。

遺構や遺物は、認められなかったが遺跡範囲であり慎重工事とした。

この周辺には、緑地帯として保存されている地区が南西部にある。現在でも流水が認められ当時の環境を彷彿させる様相を呈している。

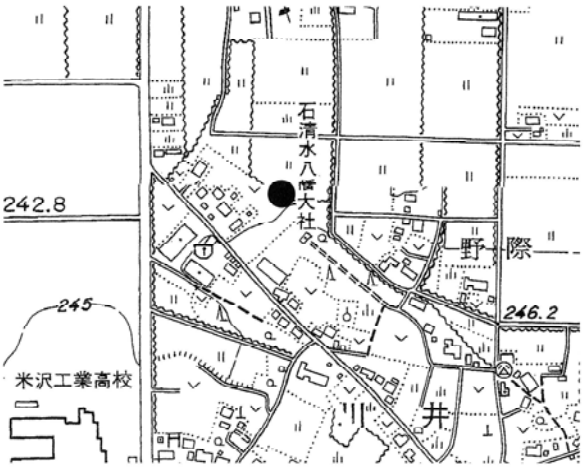


第12図　竹井遺跡試掘箇所位置図

⑭野際遺跡

本遺跡米沢市東部を流れる天王川（梓川）及び羽黒川の流域にあたり、八幡原遺跡群の南西部に位置している。遺跡は、旧羽黒川と東側の河川（旧梓川）とが合流する縁辺に立地するもので、羽黒河岸段丘を横断する河川跡を境として、南側に上谷地Ｂ遺跡、北側に野際遺跡が分布している。

届出は１件であり、石清水神社の拝殿新築工事に伴うものであった。試掘は、杉の木を伐採後に実施した。その結果、遺構、遺物は確認されなかったが遺跡範囲であり、慎重工事を指示した。

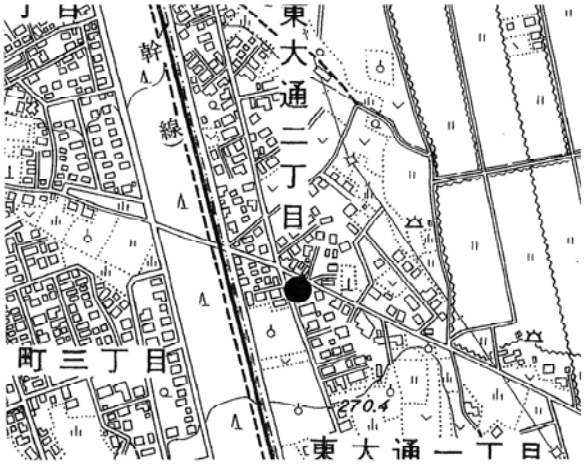


第13図　野際遺跡試掘箇所位置図

⑮東大通一丁目遺跡

本遺跡は、米沢市の東部を北流する羽黒川流域の遺跡群である。縄文時代の集落跡とされるが、調査は実施されておらず、年代は不明である。表採遺物としては剥片がある。

今回は住宅建築に伴う試掘調査として実施した。以前は、畑であり耕作土が認められた。この下面は黄色褐色の確認面で、土質は微砂質であった。遺物や遺構は確認されなかった。



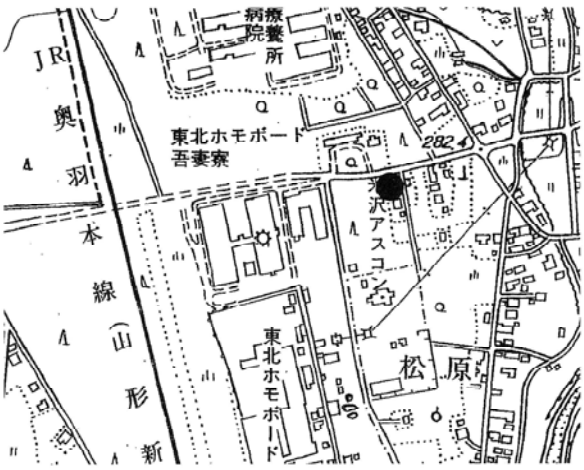
第14図　東大通一丁目遺跡試掘箇所位置図

⑯松原遺跡

道路の拡張工事に伴う発掘調査が、山形県埋蔵文化財センターによって平成５年に実施されている。その後、平成７年には米沢市教育委員会が住宅建設に伴い調査を実施している。

調査範囲は118㎡と小範囲であった。縄文時代前期の土器が出土している。

今回の届出は、工場建設である。予定地にトレンチを配し実施した。礫が多く認められ、焼土も認められた。確認した面を精査したところこれらの遺構は、以前ブドウ園であった時期に相当することが判明した。



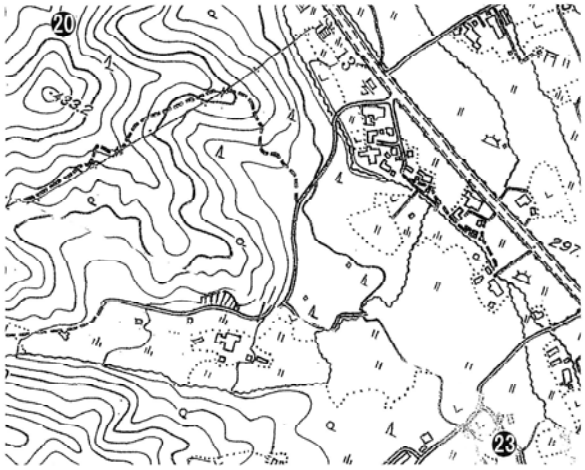
第15図　松原遺跡試掘箇所位置図

⑰万世舘山城、梓山a遺跡

米沢市の東南に位置する万世町地区に位置する遺跡群である。両者とも東北中央自動車道路建設に伴って東北電力が計画している送電線鉄塔の移動による調査である。

万世舘山城の中腹に建設される鉄塔については山城の遺構が存在しない箇所であることを確認した。ただし工事に際しては、山城に通じる道路にあたることから、慎重工事を指示した。

梓山a遺跡については、試掘調査を実施した。その結果、遺構や遺物は確認されなかった。



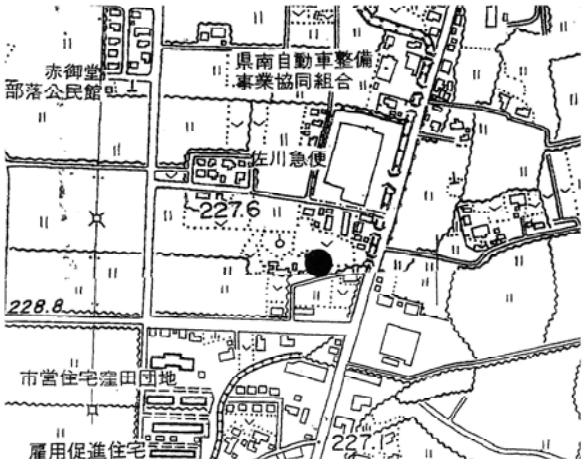
第16図　万世舘山城跡、梓山ａ遺跡試掘箇所位置図

⑱窪田元屋敷遺跡

今年度発掘調査を実施した遺跡である。詳細は第Ⅱ節でのべる。

試掘は、住宅建設に伴う届出があり、実施した。建設予定地は、周囲から見れば高台になっており削平して、建設することから発掘調査を実施することになった。

出土遺物から、古墳時代と近世の複合遺跡であることが判明した。前者の遺構としては墓壙が確認され、覆土から石製紡錘車が出土している。後者としては、柱穴が確認された。



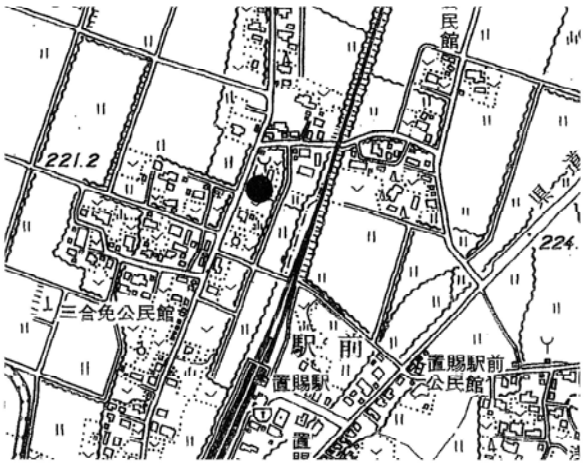
第17図　窪田元屋敷遺跡試掘箇所位置図

⑲三合免館跡遺跡

本遺跡は、市街地から北東約３㎞の標高243ｍに所在する。吾妻山を源とする、最上川（松川）によって形成された舌状台地の先端部にかけて分布している。

遺跡の存在する周辺には、県内でも有数の終末期古墳群が群集する戸塚山古墳群をはじめ、祭祀集落の上新田Ａ遺跡等が点在する。

今回の試掘は、既存の会社に付随する建物を計画したのを受け、試掘調査を実施した。耕作土が深いことから判断すれば、湿田だったと考えられる。遺物や遺構は確認されなかった。



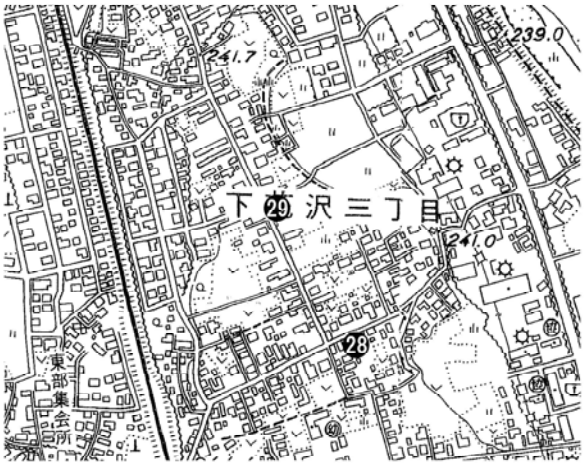
第18図　三号免館遺跡試掘箇所位置図

⑳台坂遺跡

本遺跡範囲については、2件の届出があった。29番は車庫の建設である。羽黒川によって形成された河岸段丘に位置し、東側は西から東に傾斜する地形になっている。

試掘は、手掘りで実施した。表土は礫を含まないサラサラとした茶褐色の土であった。確認面は黄褐色の微砂質土であった。近、現代に相当する土壙が認められたが、発掘調査は必要ないと判断した。

28番の地区は、住宅建設に伴うものであった。既存の家を解体後に試掘を実施した。確認面に小ピットが認められたが発掘調査は必要ないと判断した。ピットは、上面から打ち込んだ後世の杭跡と考えられる。



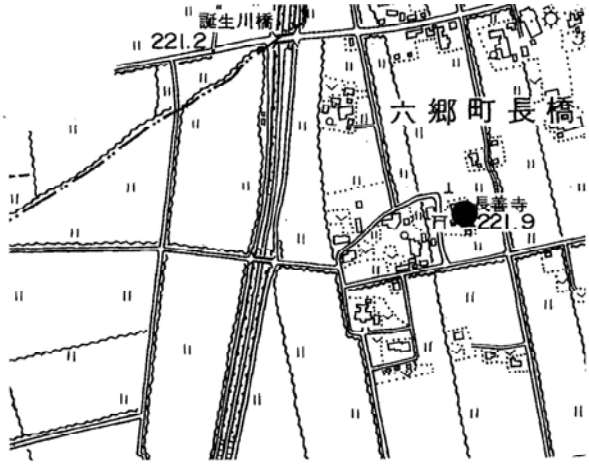
第19図　台坂遺跡試掘箇所位置図

㉑上沖館遺跡

市街地の北西方向に位置する遺跡であり、今回は寺の本堂立替によるものであった。

現地は、墓地が隣接する場所であり墓地の石塔が傾いているのが多数認められた。

解体後の跡地を精査したが、遺構、遺物は認められなかった。地盤が軟らかいことから柱箇所には多数の礫を配置していた。



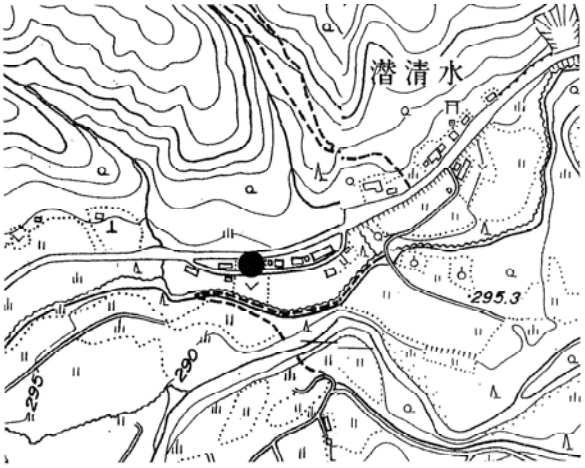
第20図　上沖館遺跡試掘箇所位置図

㉒潜清水ｂ遺跡

市街地の南西部に位置する田沢地区に位置する遺跡である。国道無121号線の工事によって遺跡の一部が削平されている。

今回調査対象となった箇所は、旧道と新道に挟まれた箇所に住宅建設の届出があり、それに伴う試掘として実施した。

現況は畑と住宅地であり、基礎工事の礫等が散乱していた。試掘の結果、遺跡は既に削平されており、遺構や遺物は検出されなかった。



第21図　潜清水ｂ遺跡試掘箇所位置図

第１表　包蔵地内分布調査箇所

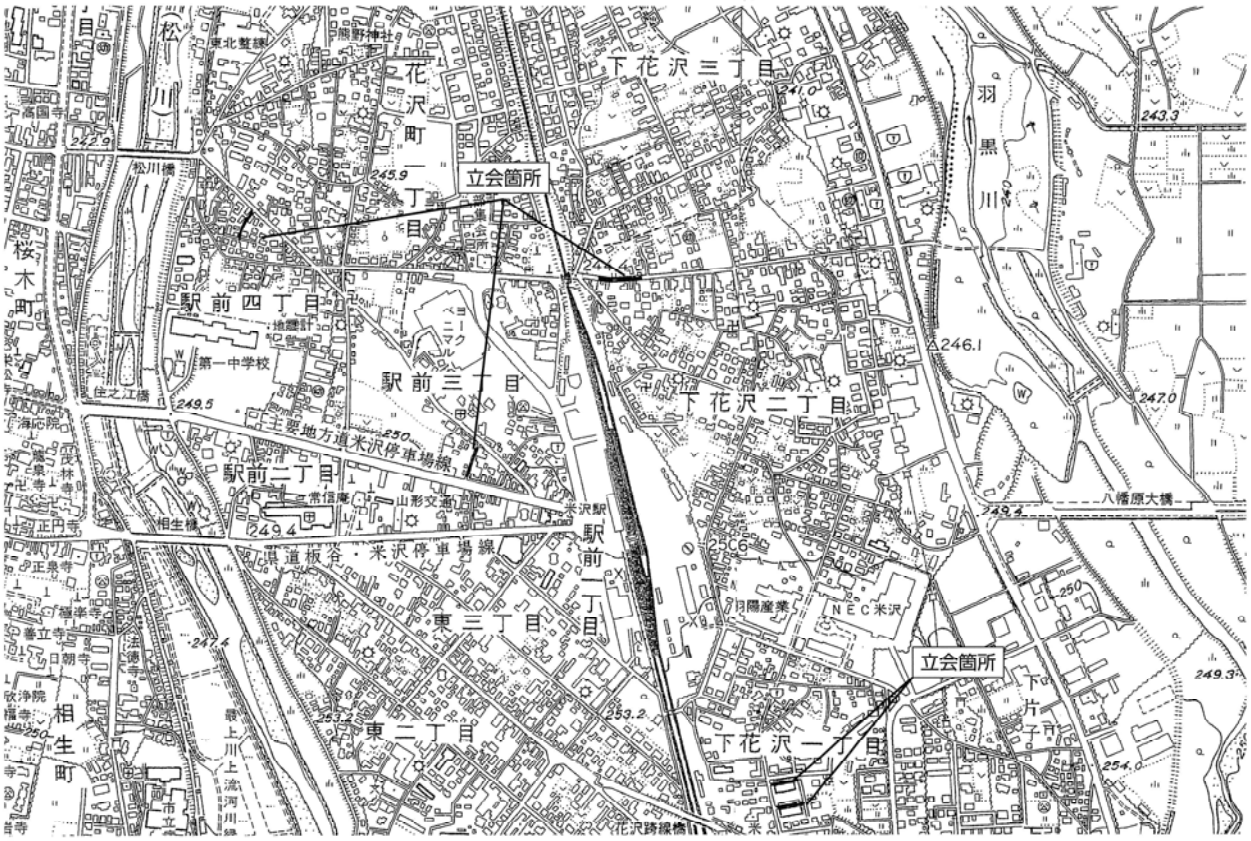
No	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
1	舘山平城	舘山1丁目86-5	3月10日	宅地造成	トレンチ	２ｍ×８ｍ　１本
2	花沢Ａ	下花沢3丁目4-69		個人住宅	トレンチ	２ｍ×６ｍ　１本
3	花沢Ａ	駅前4丁目2439-3	4月24日	個人住宅	トレンチ	１ｍ×２ｍ　２箇所
4	米沢城跡	丸の内2丁目3060-1,9,17	5月２日	店舗	グリット	全域
5	花沢Ａ	駅前三丁目2473-13	5月９日	集合住宅	トレンチ	１ｍ×10ｍ　５箇所
6	中ノ目	大字梓川698	5月18日	工場	トレンチ	１ｍ×30ｍ　３箇所
7	台ノ上	吾妻町6-137	5月19日	個人住宅	グリット	１ｍ×１ｍ　１箇所
8	長泉寺	大字李山8845	5月29日	庫裡	グリット	１ｍ×１ｍ　１箇所
9	下花沢ａ	下花沢2丁目1881-7　外	5月31日	個人住宅	グリット	１ｍ×１ｍ　１箇所
10	東屋敷	大字梓川字上竹井1097-2　外	6月７日	車庫	トレンチ	1.5ｍ×4ｍ　１本
11	馬場館	赤芝町1626-2	6月８日	個人住宅兼工場又は店舗	トレンチ	１ｍ×３ｍ　１箇所
12	生蓮寺	舘山1丁目3-7	6月14日	工場	トレンチ	1.5ｍ×16ｍ　１本
13	大浦Ａ	中田町芦付弐292-3,4	6月15日	車庫	トレンチ	12ｍ×1.5ｍ　１本
14	花沢Ａ	花沢町2169-9　外	6月26日	宿舎	現地確認	
15	竹井	八幡原1丁目3-10	7月４日	食堂	トレンチ	２ｍ×６ｍ　１本
16	野際	大字竹井野際788	7月６日	社殿	トレンチ	１ｍ×６ｍ　１箇所
17	東大通一丁目	東大通1丁目1708-5	7月21日	個人住宅	トレンチ	１ｍ×３ｍ　１箇所
18	松原	大字三沢字白旗26109-39	7月25日	工場	トレンチ	23ｍ×１ｍ　３箇所
19	舘山平城	舘山1丁目22-1,22-6	7月26日	宅老所	トレンチ	２ｍ×５ｍ　１箇所
20	万世舘山城	万世町桑山字舘山3616番地外	7月26日	その他の開発	現地確認	
21	窪田元屋敷	窪田町窪田字東谷地301-1	7月31日	個人住宅	トレンチ	２ｍ×１ｍ　１箇所
22	舘山平城	吹屋敷町125-3	8月２日	個人住宅	現地確認	
23	梓山ａ	万世町梓山字曲窪2030番地外	8月21日	その他の開発	グリット	１ｍ×１ｍ　２箇所
24	下花沢ａ	下花沢2丁目8-31	8月25日	集合住宅	トレンチ	２ｍ×10ｍ　１箇所
25	花沢Ａ	花沢町2619-2	9月４日	個人住宅	トレンチ	２ｍ×１ｍ　１箇所
26	上沖舘	六郷町長橋253	9月５日	寺院	グリット	１ｍ×１ｍ　１箇所
27	三合免館	大字下新田1759-1	9月６日	その他の建物	トレンチ	２ｍ×１ｍ　１箇所
28	台坂	下花沢3町目1787-2	9月13日	個人住宅	グリット	２ｍ×２ｍ　１箇所
29	台坂	下花沢3町目1738	9月25日	その他の建物	トレンチ	１ｍ×２ｍ　１箇所
30	米沢城跡	丸の内1丁目8-1	9月28日	個人住宅	現地確認	
31	舘山平城	舘山1丁目1-128	3月28日	個人住宅	トレンチ	１ｍ×２ｍ　１箇所
32	潜清水ｂ	口田沢234-2	10月11日	個人住宅	トレンチ	１ｍ×２ｍ　１箇所
33	東屋敷	大字梓川字竹井1124-3	10月16日	個人住宅	トレンチ	１ｍ×２ｍ　１箇所
34	花沢Ａ	駅前4丁目2439	10月23日	個人住宅	トレンチ	１ｍ×２ｍ　１箇所
35	花沢Ａ	花沢町1丁目2555-1	10月27日	個人住宅	トレンチ	１ｍ×２ｍ　１箇所
36	米沢城跡	城南1丁目63-1	11月15日～17日	集合住宅	トレンチ	３箇所　１ｍ×10ｍ
37	中ノ目	大字梓川698-2	11月22日	個人住宅	現地確認	
38	花沢Ａ	花沢町1丁目2619-1　外	12月25日	集合住宅		１ｍ×２ｍ　１箇所
39	小野川町ａ	小野川町2934	12月22日	その他の建物	現地確認	

第２表　公共事業関連分布調査箇所

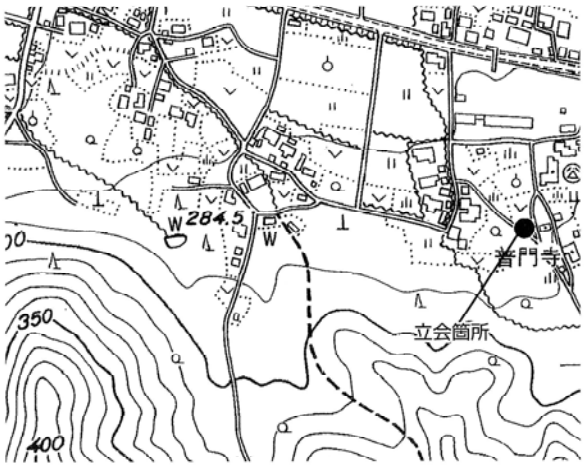
No	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
1	台坂、下花沢ｂ	下花沢および花沢地内	5月22日～10月31日	下水道	トレンチ	１ｍ×955ｍ（延長）
2	花沢Ａ、佐氏泉館	花沢町および駅前3町目地内	10月17日～10月25日	下水道	トレンチ	１ｍ×120ｍ（延長）
3	堤屋敷	万世町桑山地内	12月13日	水路工事	トレンチ	２ｍ×７ｍ　２本

第３表　大規模開発分布調査箇所

	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
1	該当なし	万世町片子地内	4月20日	宅地造成	トレンチ	１ｍ×４ｍ・３ｍ・２ｍ　各１本
2	該当なし	徳町101,103,106-1,107-1地内	6月12日	ガソリンスタンド建設	トレンチ	1.5ｍ×32ｍ・30ｍ　各１本
3	該当なし	大字花沢字弥藤在家1-3003-1	6月13日	宅地造成	グリット	10ｍ×10ｍ　１箇所
4	該当なし	窪田町小瀬字原田二地内	7月10日	宅地分譲（建て売り）	トレンチ	１ｍ×５ｍ　10箇所
5	該当なし	塩井町塩野字川在家5055外2筆	10月30日	砂利採取	トレンチ	２ｍ×10ｍ　４箇所
6	該当なし	矢来3町目565-1,566-1地内	11月７日	宅地造成	トレンチ	１ｍ×40ｍ　１箇所
7	該当なし	大字竹井字玉ノ木185,2585-81外地内	11月15日	事務所新築		現地確認
8	該当なし	大字川井字道下2291、2292、3747-9	12月４日	宅地分譲	トレンチ	１ｍ×10ｍ　２箇所
9	該当なし	相生町１782-1外	9月11日	マンション	全面	
10	該当なし	中田町928-1外	11月21日	店舗	トレンチ	２ｍ×10ｍ　７箇所
11	該当なし	大字芳泉町地内	H19　1月30日	工場		現地確認
12	該当なし	福田町一丁目地内	H19　1月30日	宅地造成	グリット	１ｍ×１ｍ　１箇所



第22図　台坂、下花沢ｂ、花沢Ａ、佐氏泉遺跡試掘箇所位置図



第23図　堤屋敷遺跡試掘箇所位置

㉓公共事業に伴う試掘調査

下水道工事と林道工事に伴うものであり、前者に関連する遺跡として、台坂遺跡、下花沢ｂ遺跡、花沢Ａ遺跡、佐氏泉館遺跡の米沢駅周辺に分布する遺跡群である。後者は万世町桑山の堤屋敷遺跡であり東北中央自動車道路建設に伴って新規に発見された遺跡である。

第22図に示した黒色箇所が確認調査を実施した箇所である。下水道工事は平均で３ｍ掘り下げることから、湧水箇所が多く認められた。遺物、遺構は確認されなかった。

第23図は、堤屋敷遺跡の試掘箇所位置図である。今回の工事は、林道工事に先立って実施される側溝の工事に伴うもので本格的な工事は平成19年度に予定されている。

遺跡の北方部は山形県埋蔵文化財センターによって、発掘調査が実施された箇所にあたる。試掘調査は、重機を使用して実施したが遺構、遺物は検出されなかった。

3　大規模開発関係分布調査

本市教育委員会は、遺跡範囲はもとより遺跡の周知徹底を図るため、1,000㎡以上の開発事業を大規模開発の目安としており、遺跡の包蔵以外の場合においても遺跡の可能性を把握するため、開発者側から分布調査依頼書を受け現地踏査や状況によっては試掘等を実施している。

今年度の大規模開発関係分布調査は、平成19年２月28日現在で12件あった。大規模開発は、宅地造成や集合住宅の建設、砂利採集、大形店舗建設がある。これらについては第2表に詳細を、第24図～41図に位置図、トレンチ配置図を示したので参照願いたい。次に各地区で実施した分布調査について述べる。

⑴万世町片子地内（第24.25図）

市街地の東部に位置する万世町の入り口に地域が片子地区である。この地区の北東には羽黒川が流れている。分布調査を実施した箇所は、水田地帯であったが近年は周囲が住宅地に変貌しており、今回も住宅地造成による申請であった。第25図で示した箇所にトレンチを配置して実施した結果、水田の耕作土の下面は砂利層であり遺構や遺物の出土は認められなかった。

⑵徳町地内（第26.27図）

国道121号線と国道287号線が交差する、東方に位置する場所で朝夕は交通渋滞がおこる箇所である。この国道121号線に隣接してガソリンスタンドが計画されたのを受けて、分布調査を実施した。以前は畑であり、耕作土下面には黄色褐色の粘土質がある。この面からの遺構や遺物は認められなかった。

⑶矢来三丁目地内（第28.29図）

市街地の南西部に位置し、果樹園が広がる地域である。宅地造成の申請があり分布調査を実施している。トレンチを配して掘り下げたが遺構や遺物は検出されなかった。

⑷大字川井字道下地内（第30.31図）

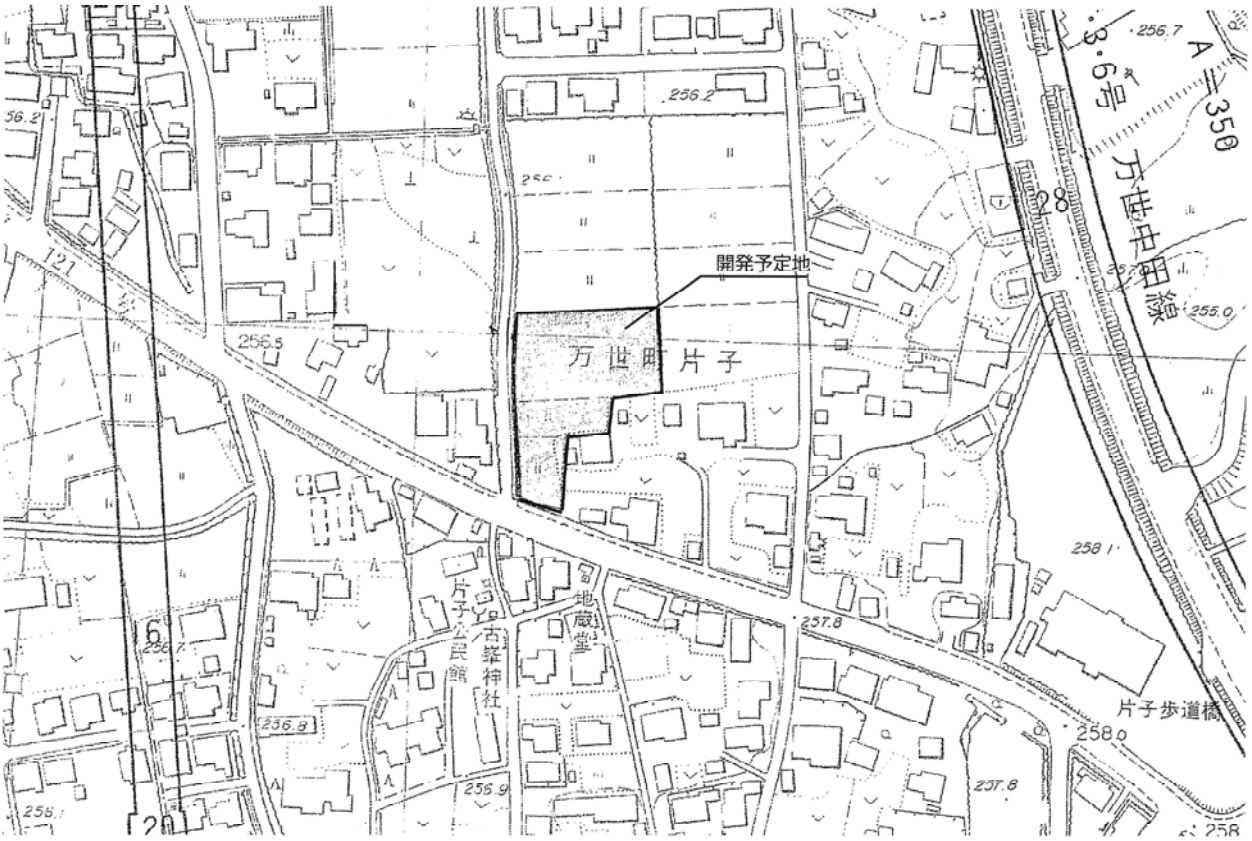
市街地の北東に位置する戸塚山の西方を、北流する馬橋川の左岸に位置する。周囲は圃場整備された水田が広がる地域である。この地区に宅地造成の計画があり、分布調査を実施した。その結果、河川改修工事によるものと考えられる盛土箇所や削平箇所、撹乱箇所が随所に認められた。蛇行していた河川を真っ直ぐにした結果と推測される。遺構や遺物は認められなかった。

⑸大字芳泉町地内（第32図）

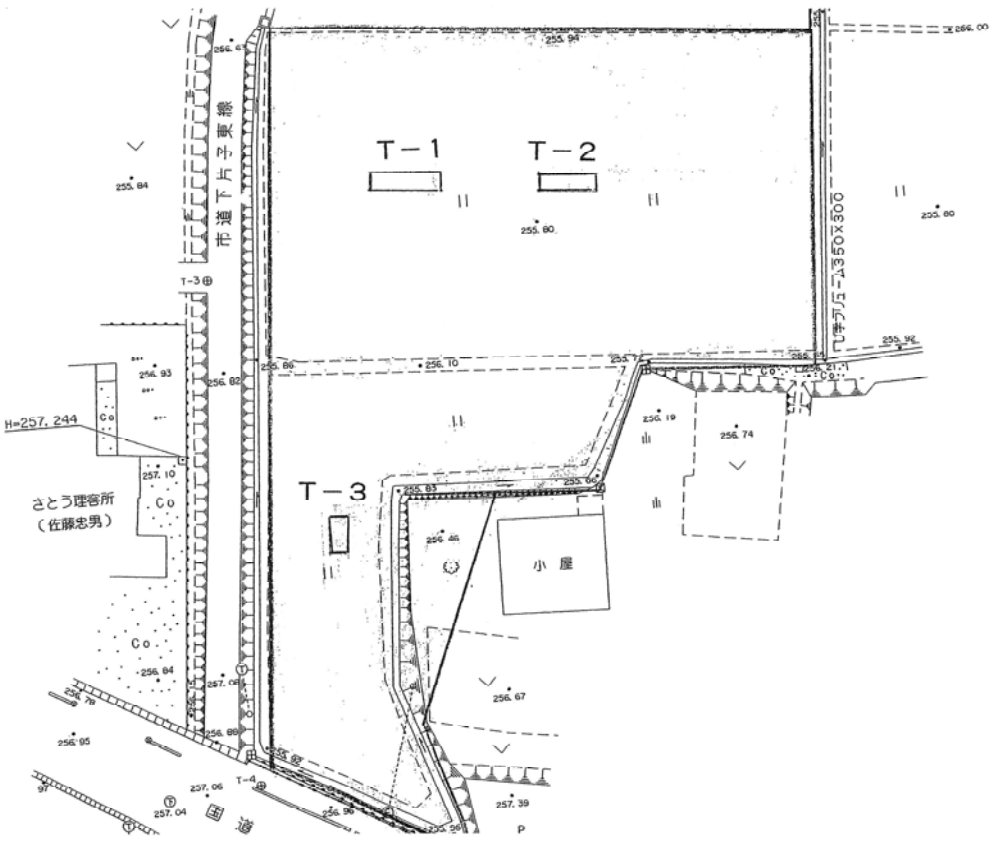
工場の造成による分布調査である。この周辺一帯は、最上川（松川）による氾濫が繰り返された地域であり、縄文時代の遺跡は存在しないことが判明している。ただし、藩政時代に作られた石積みの堤防が存在することから、現地を踏査した。その結果、開発予定範囲には遺構は確認さなかった。

⑹大字竹井地内（第33図）

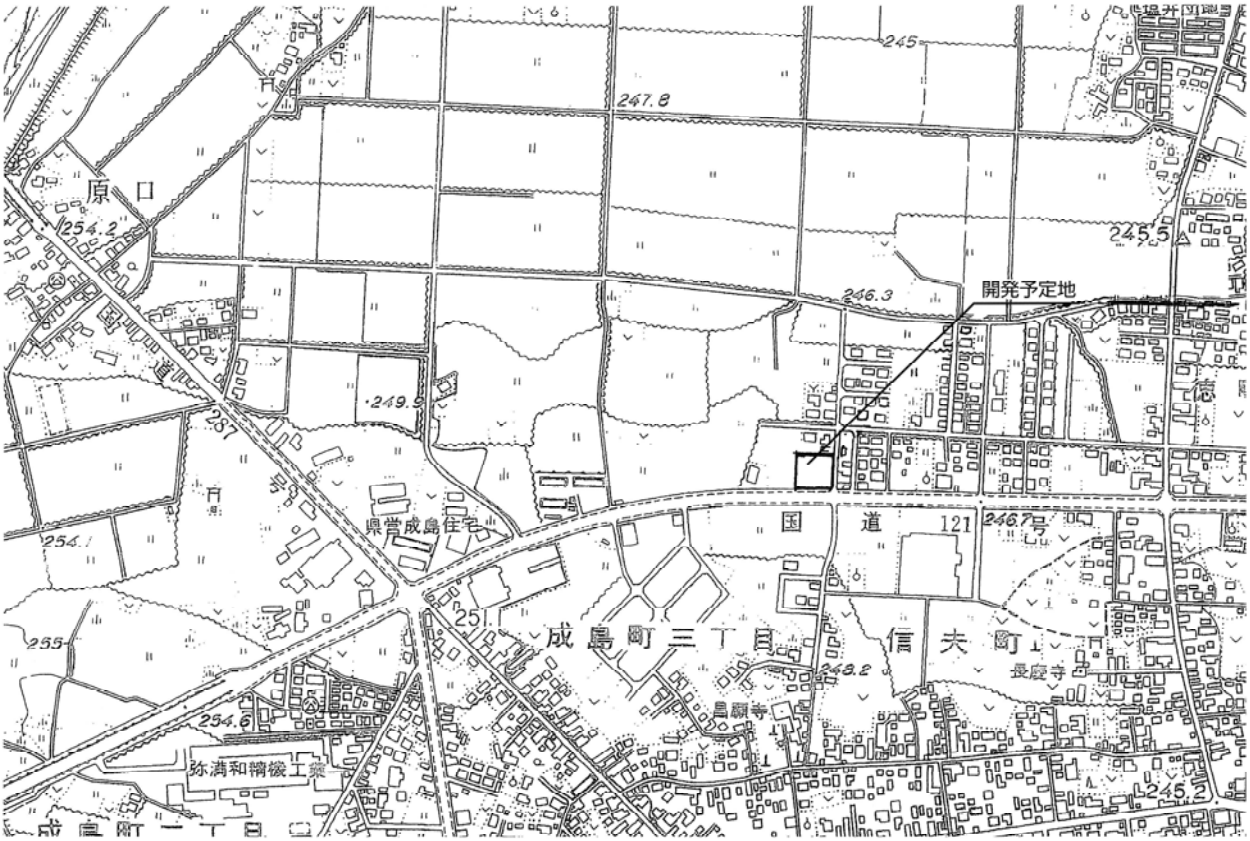
市街地の北東部に位置する八幡原工業団地の一角に隣接する。工場用地としての開発であり現地踏査を実施した結果、以前に削平した箇所であった。遺物を数点表採しており、削平以前における分布調査を指導した。



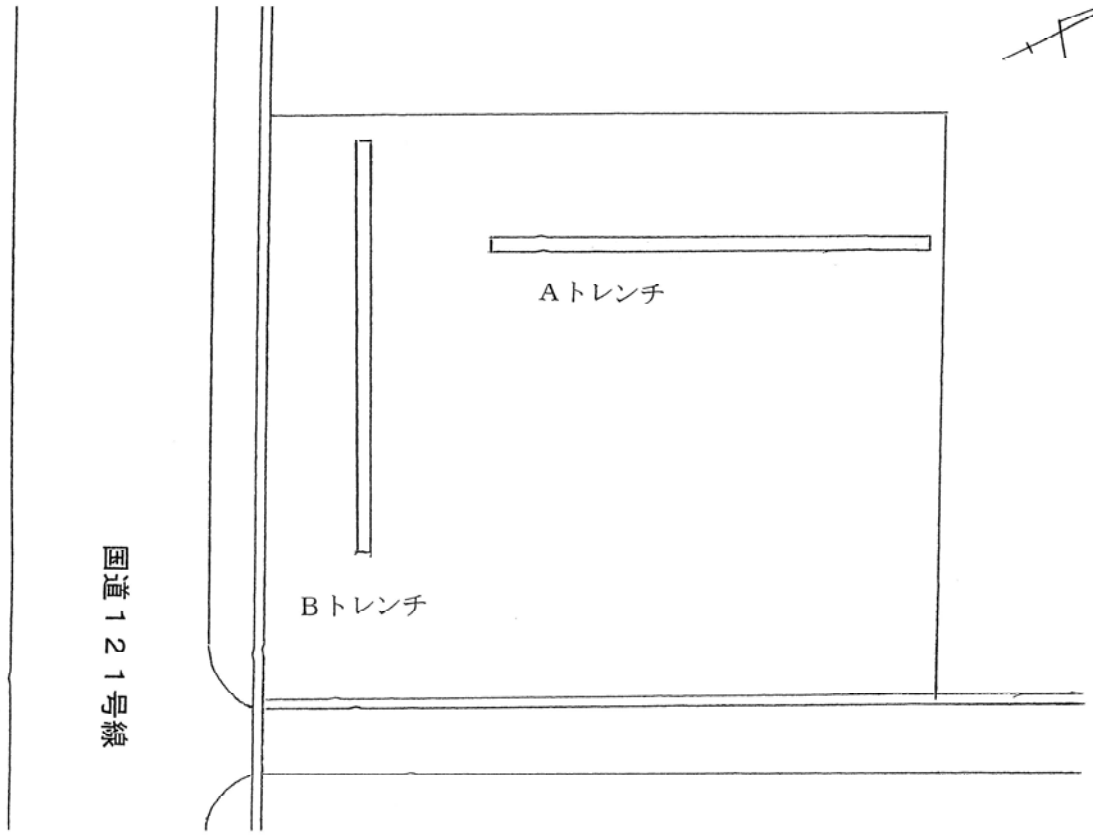
第24図　万世町片子地内位置図



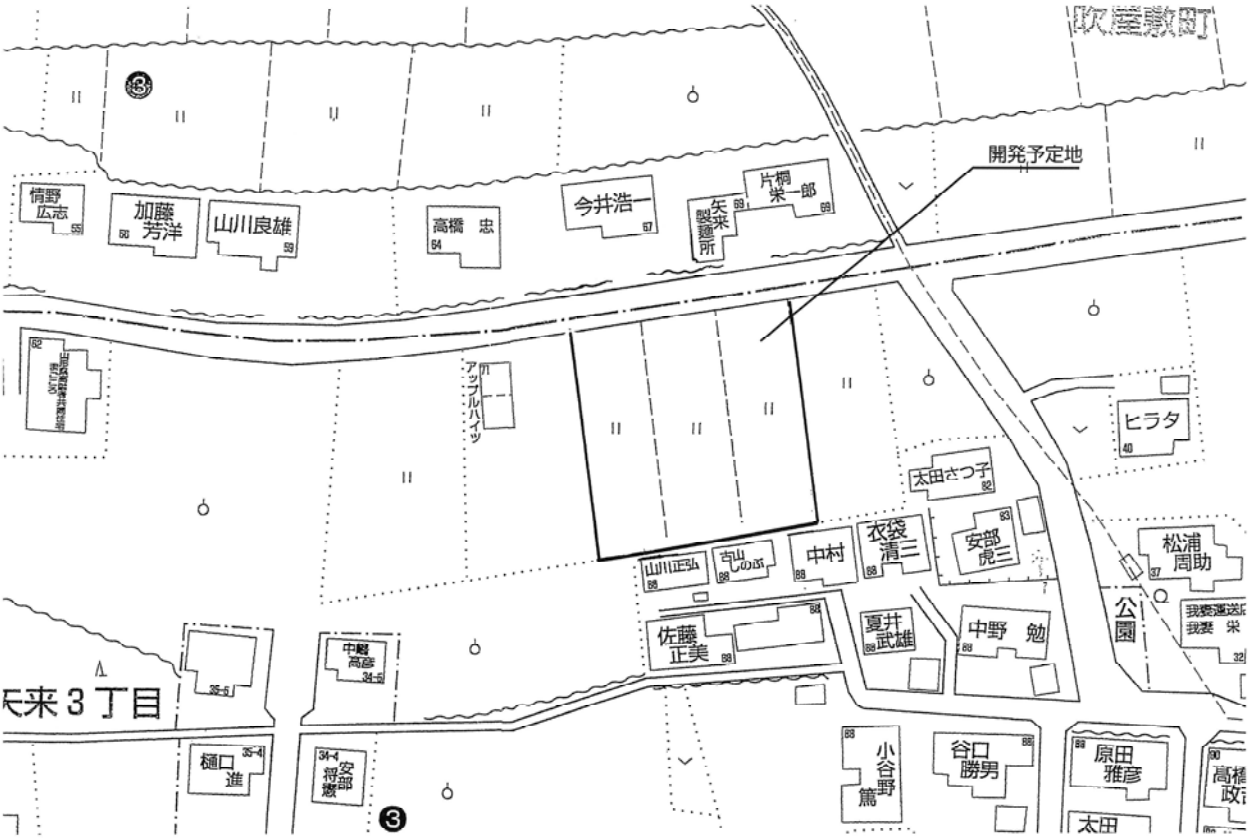
第25図　万世町片子地内トレンチ配置図



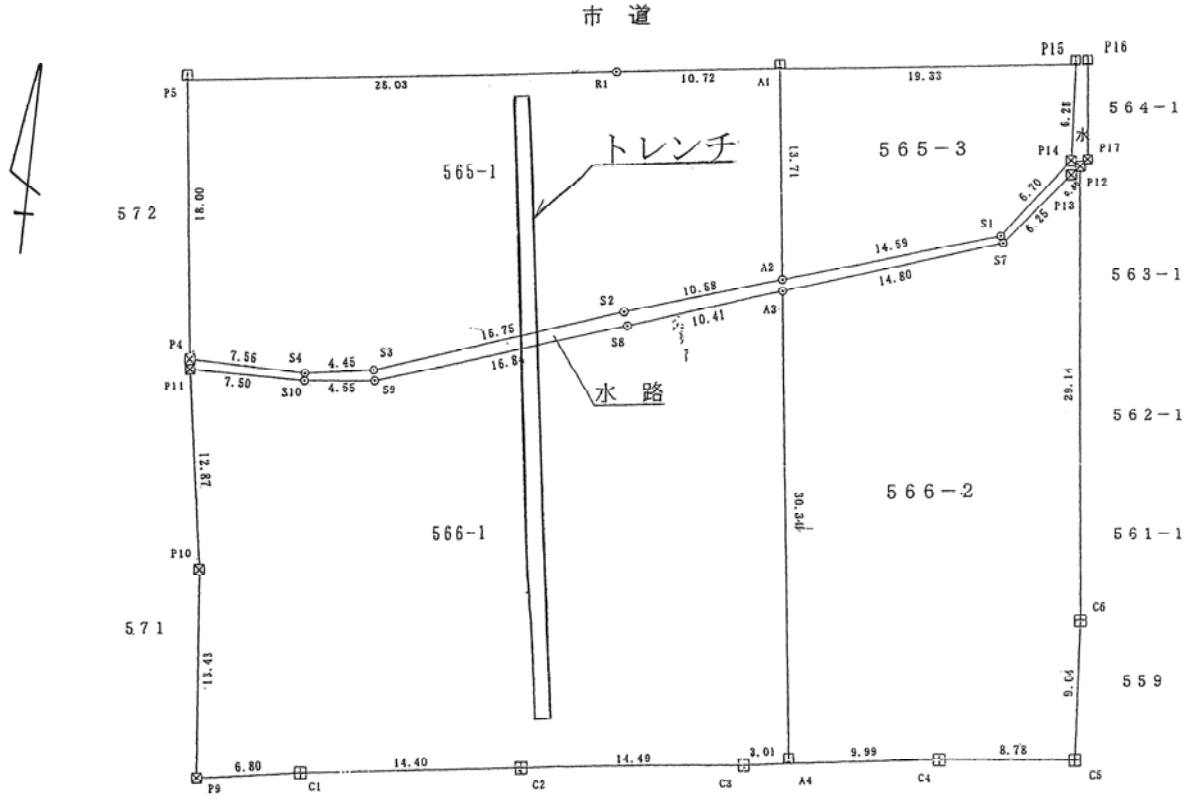
第26図　徳町地内位置図



第27図　徳町地内トレンチ配置図

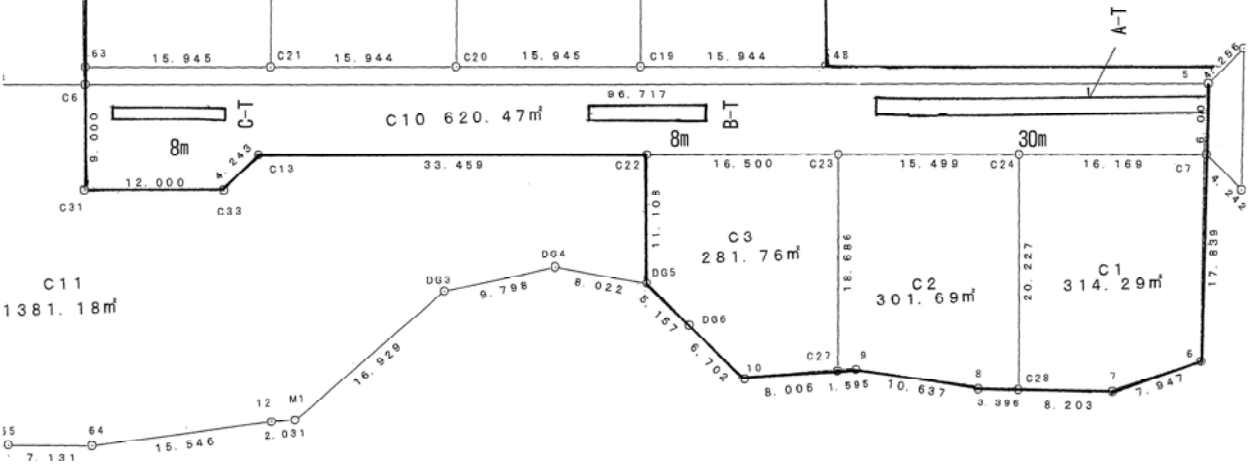


第28図　矢来三丁目地内位置図

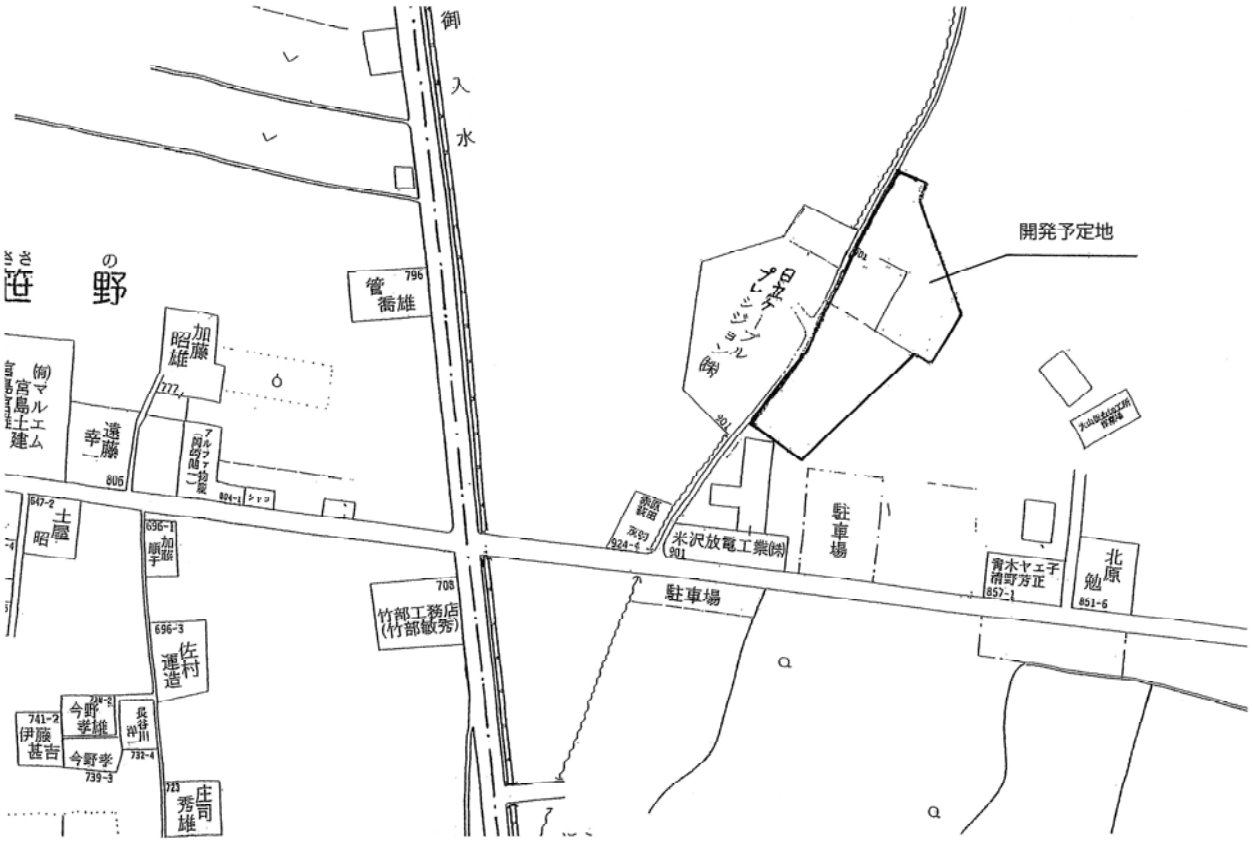


第29図　矢来三丁目地内トレンチ配置図

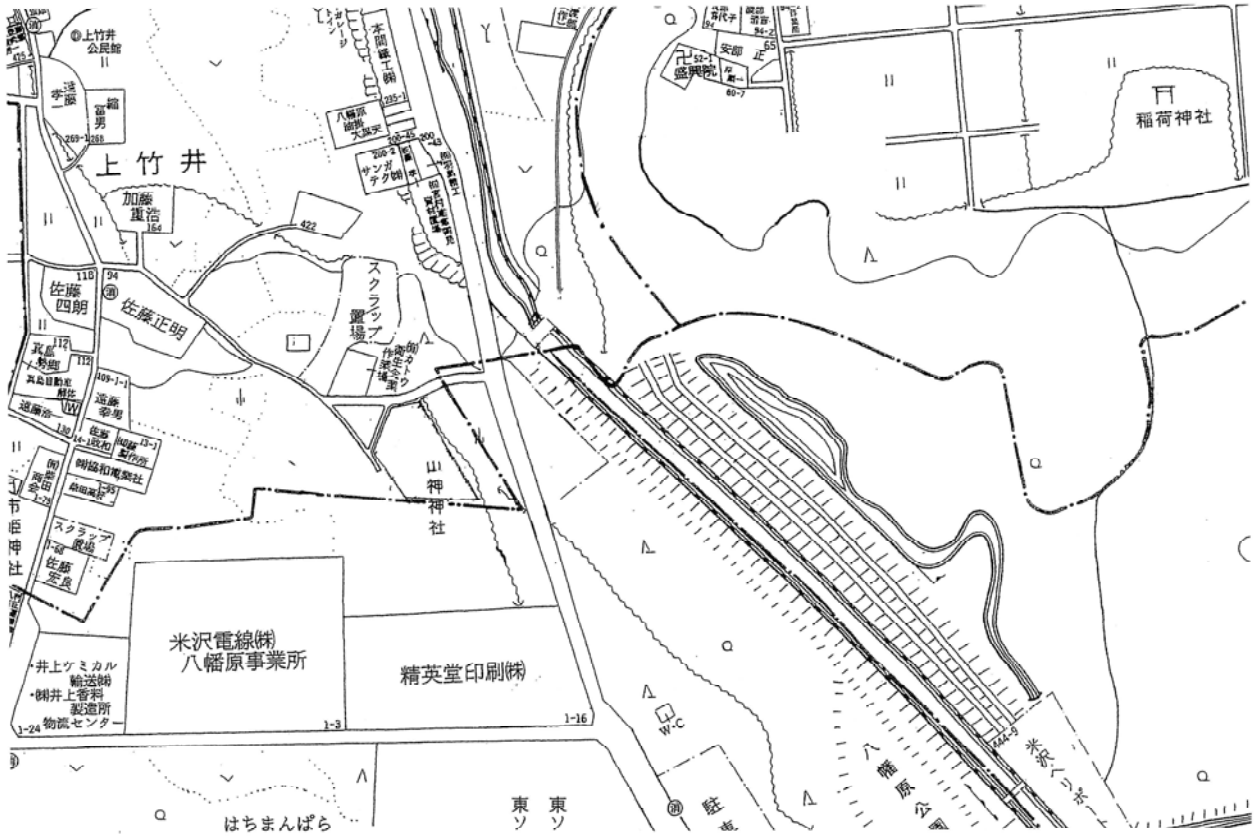
第30図　大字川井字道下地内位置図



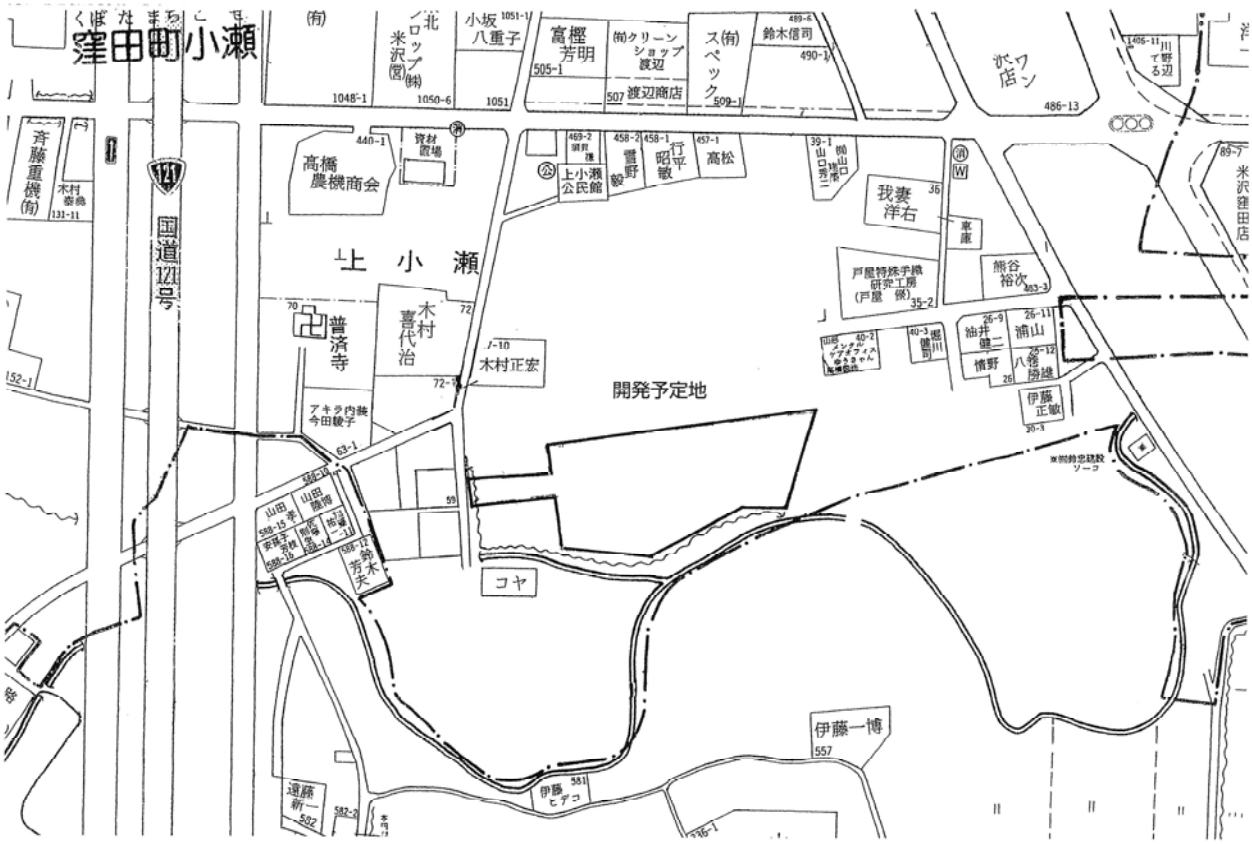
第31図　大字川井字道下地内トレンチ配置図



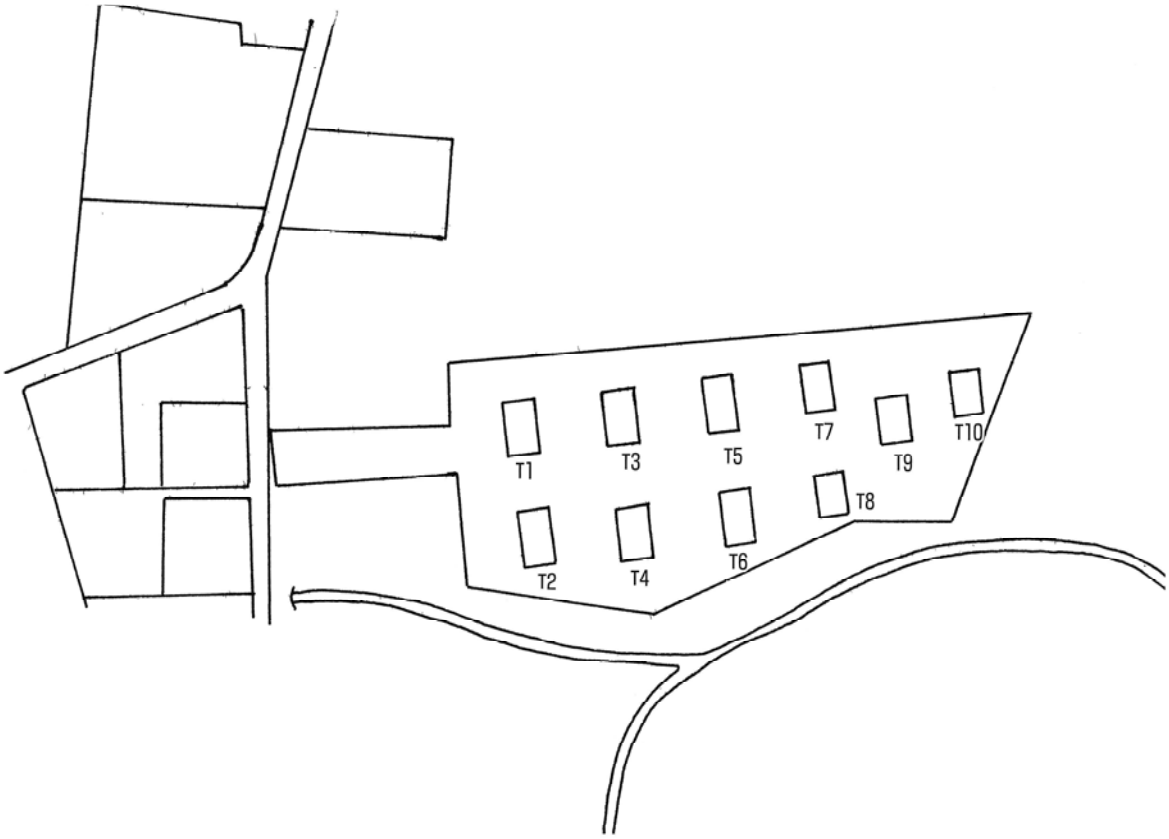
第32図　大字芳泉町地内位置図



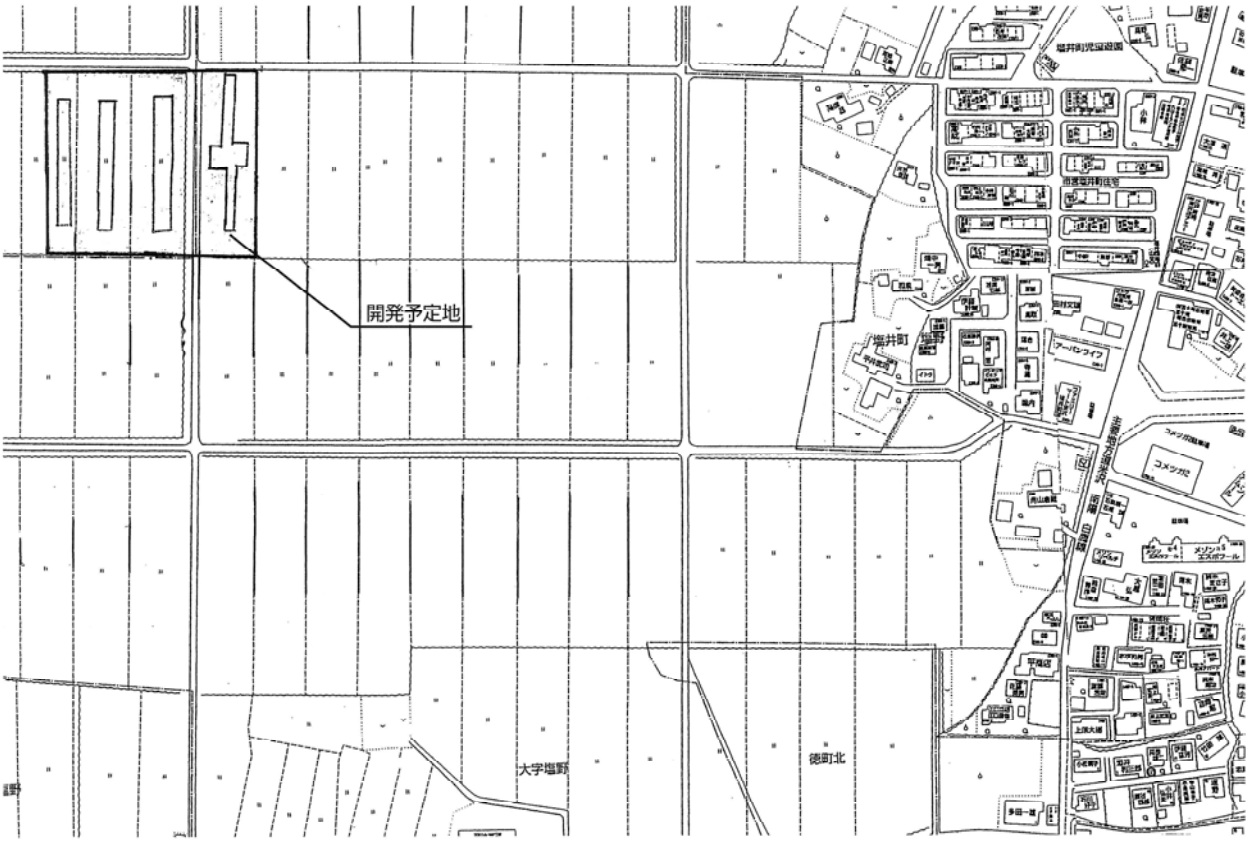
第33図　大字竹井地内位置図



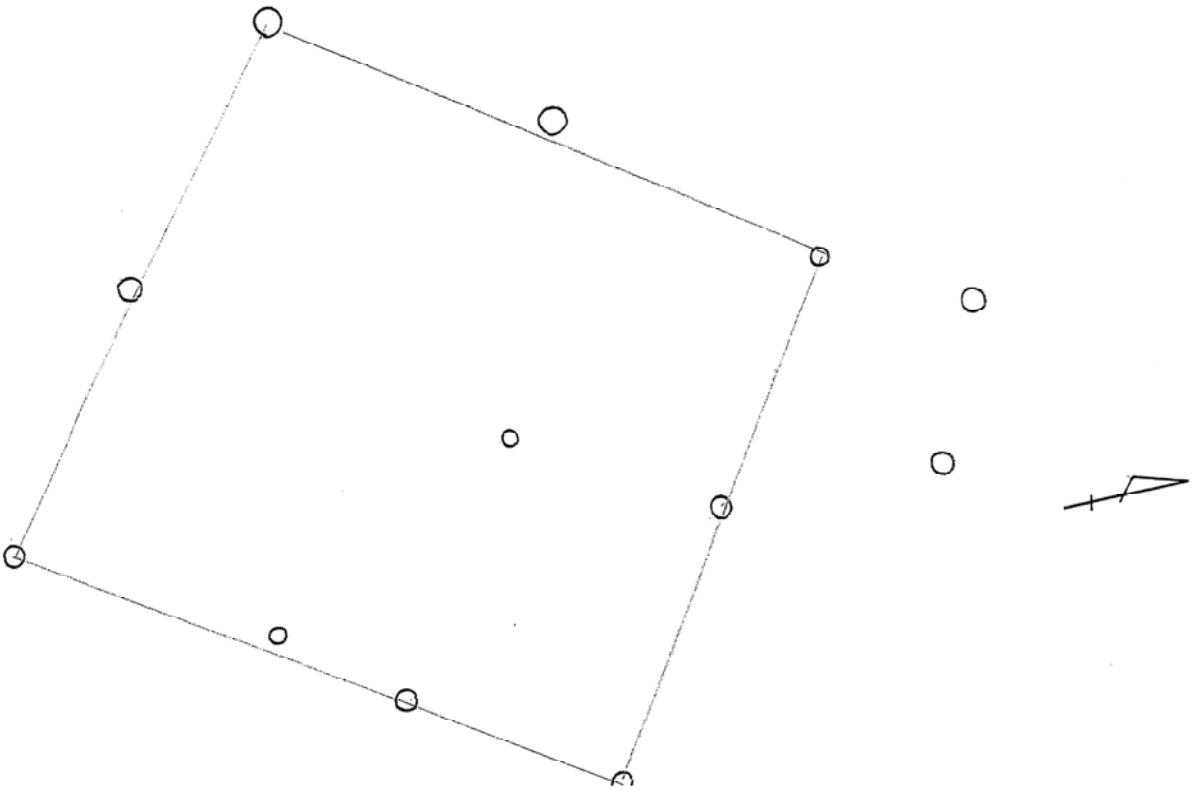
第34図　窪田町小瀬字原田二地内位置図



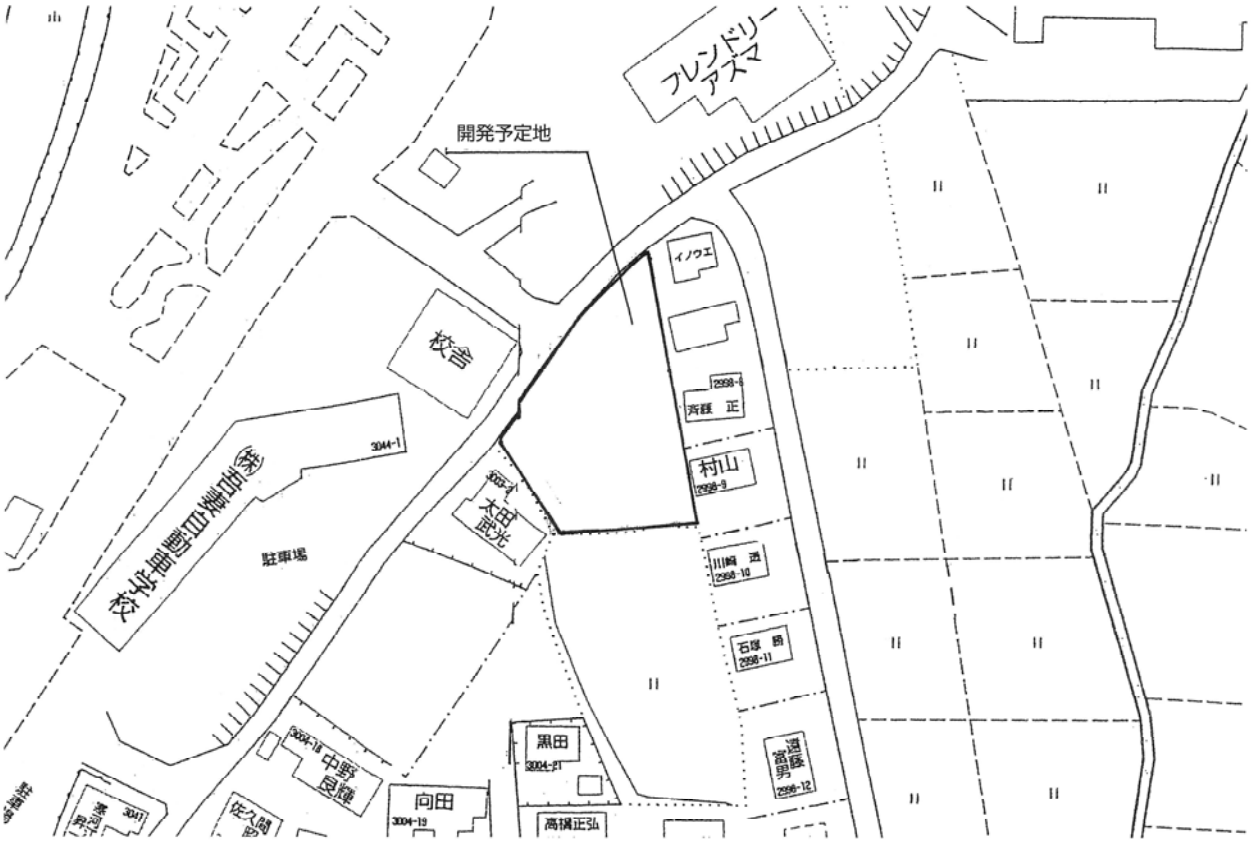
第35図　窪田町小瀬字原田二地内トレンチ配置図



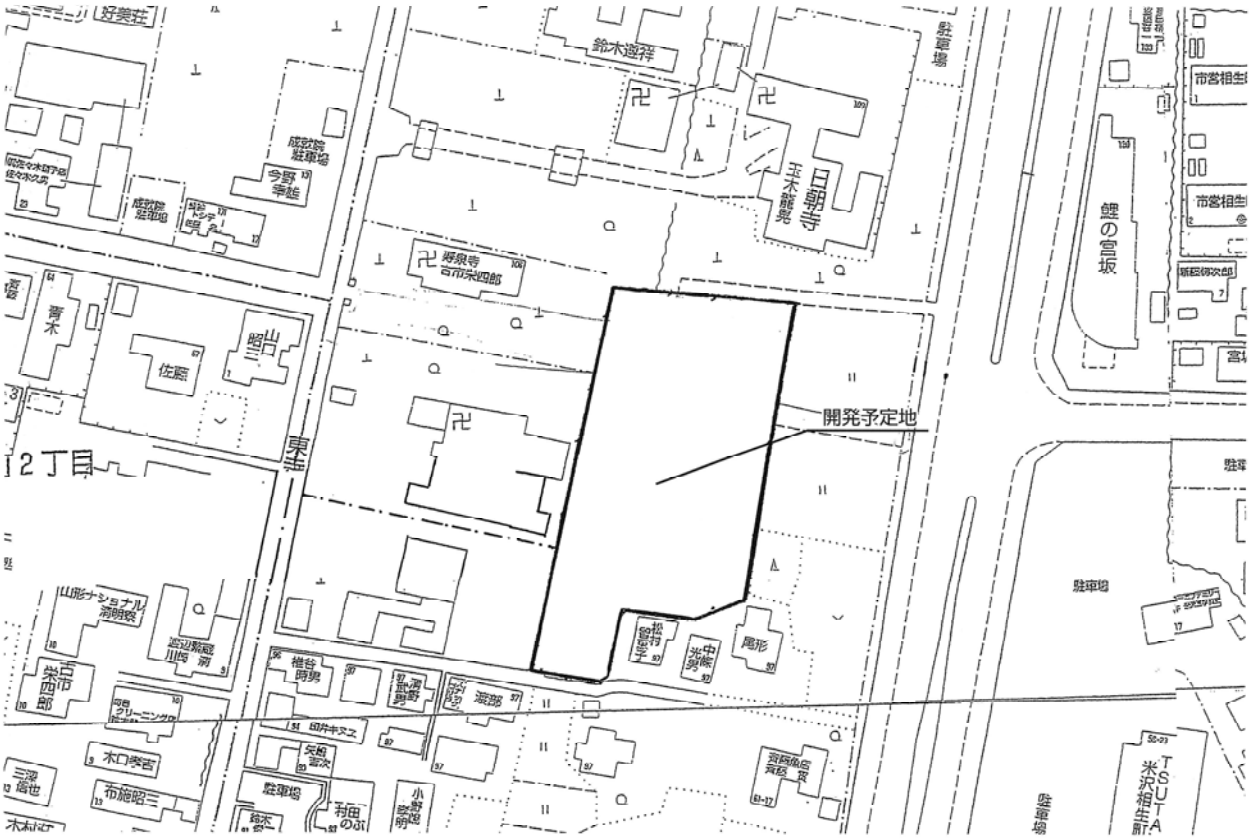
第36図　塩井町塩野地内位置図



第37図　塩井町塩野地内拡張区確認遺構平面図

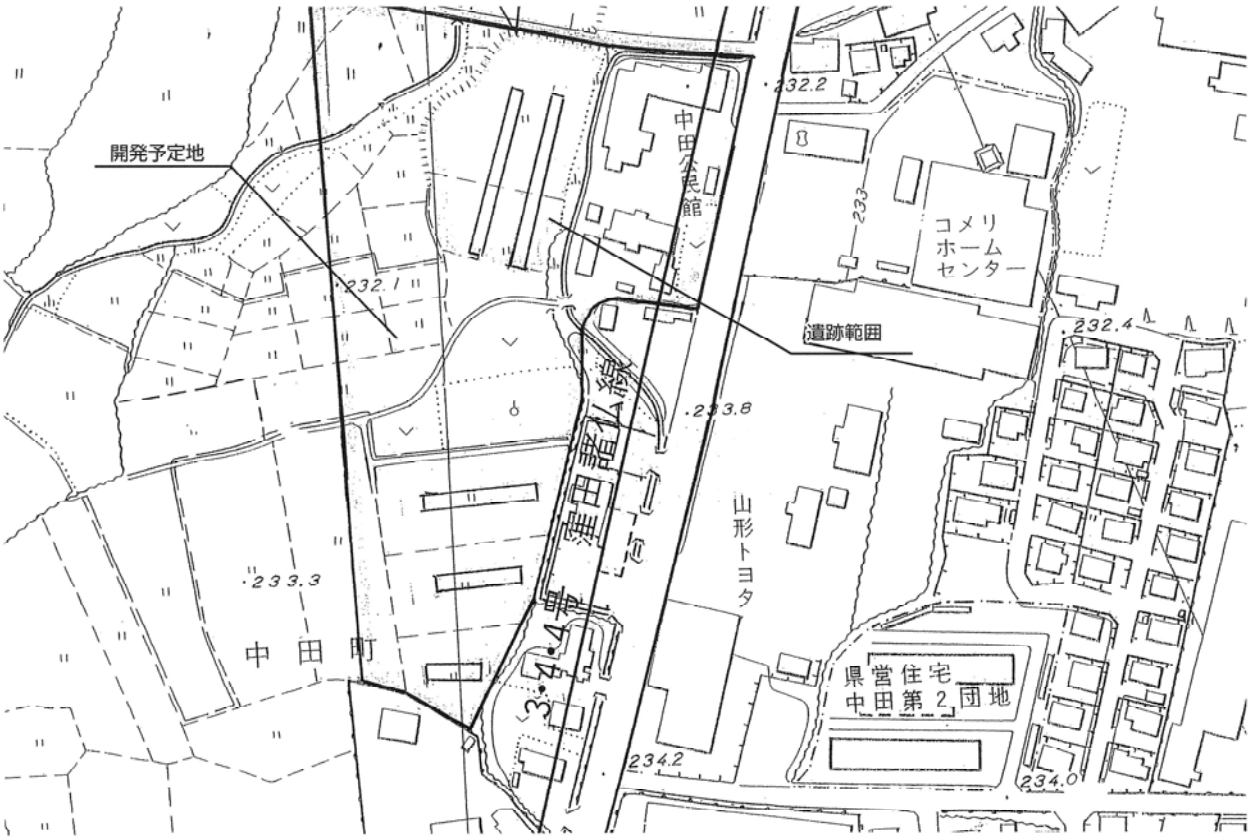


第38図　大字花沢地内位置図



第39図　相生町地内位置図

第40図　福田町一丁目地内位置図



第41図　街道西下遺跡（新発見）試掘箇所位置図

⑺窪田町小瀬地内（第34.35図）

市街地の北方に位置する地域である。今回の分布調査は、宅地造成に伴う分布調査であった。第34図で示す箇所にトレンチを配して実施した。泥炭層が認められ湿地帯の様相を呈していた。遺構、遺物は認められなかった。

⑻大字花沢地内（第38図）

米沢市の中央部を流れる最上川（松川）によって、形成された河岸段丘上に位置する箇所である。耕作土を重機で剥離して分布調査を実施したが、遺構、遺物は検出されなかった。確認面は黄褐色粘質土であった。

⑼相生町地内（第39図）

藩政時代は、東寺町と呼ばれた箇所であり今回の調査箇所の周辺にも墓地が認められた。マンション建設に伴うものであり、建物が建設される範囲について試掘を実施した。

当初、柱穴と考えた痕跡は精査の結果、立ち木の根であることが判明した。その他にも溝状遺構が確認されたが、混入遺物から近、現代であり調査は必要ないと判断した。

⑽塩井町塩野地内（第36.37図）

市街地の北西に位置する地区である。今回は、砂利採集に伴うものであり、トレンチを配して実施したところ、第37図で示した柱穴を検出した。柱の規模から近世と考えられる。拡張したが他に遺構は認められなかった。遺物も出土しなかったので、遺構平面図を作成して終了した。

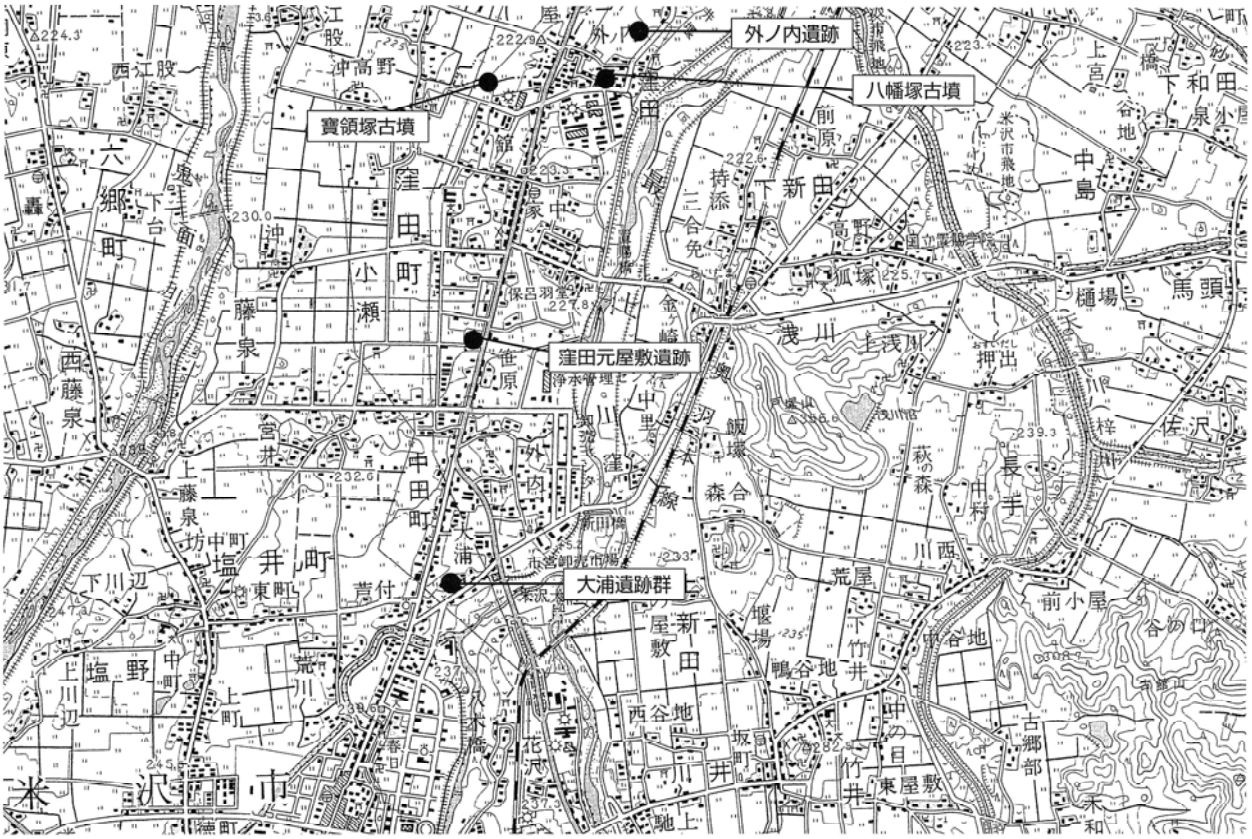
⑾福田町一丁目地内（第40図）

この地域は、米沢市街地の南部に位置する。近くに面積約17万㎡に及ぶ縄文時代中期中葉を中心とする台ノ上遺跡高台に分布している。今回試掘を実施した箇所は水田地帯ある。試掘の結果、遺構、遺物は検出されなかったが最下層に炭化物を含む層であり周辺に遺跡が存在する可能性が認められた。

⑿街道西下遺跡（新発見）（第41図）

米沢市街地の北方に位置する窪田地区に、大規模店舗が建設されることから開発予定地範囲において分布調査を実施した。

その結果、点線で示した範囲に遺構群が認められた。その他の範囲は大半が河川跡であった。確認した遺構は、柱穴、土壙、溝状遺構等であった。これらの遺構は耕作土下面の黄褐色粘質土を掘り込んで構築している。柱の大きさから中、近世の年代が想定される。遺物は土師器片が出土しているが、遺構の年代とは関連しないと考えられる。遺構群が確認された場所は、高台になっており工事の都合上どうしても削平することから平成19年度に発掘調査を予定している。また、新規に遺跡として登録した遺跡である。調査期間は、約２ヶ月予定している。



第42図　窪田元屋敷遺跡位置図

第Ⅱ節　窪田元屋敷遺跡発掘調査

1　遺跡の概要

本遺跡の調査箇所は、米沢市窪田町窪田字東谷地301-1及び東元屋敷1541-1の一部に所在する。

付近一帯は西を流れる鬼面川によって形成された扇状地と東を流れる羽黒川、最上川（松川）両河川の扇状地が複合した沖積性台地であり、後に鬼面川・最上川が河岸段丘を発達させ南北にのびる帯状地帯を形成している。

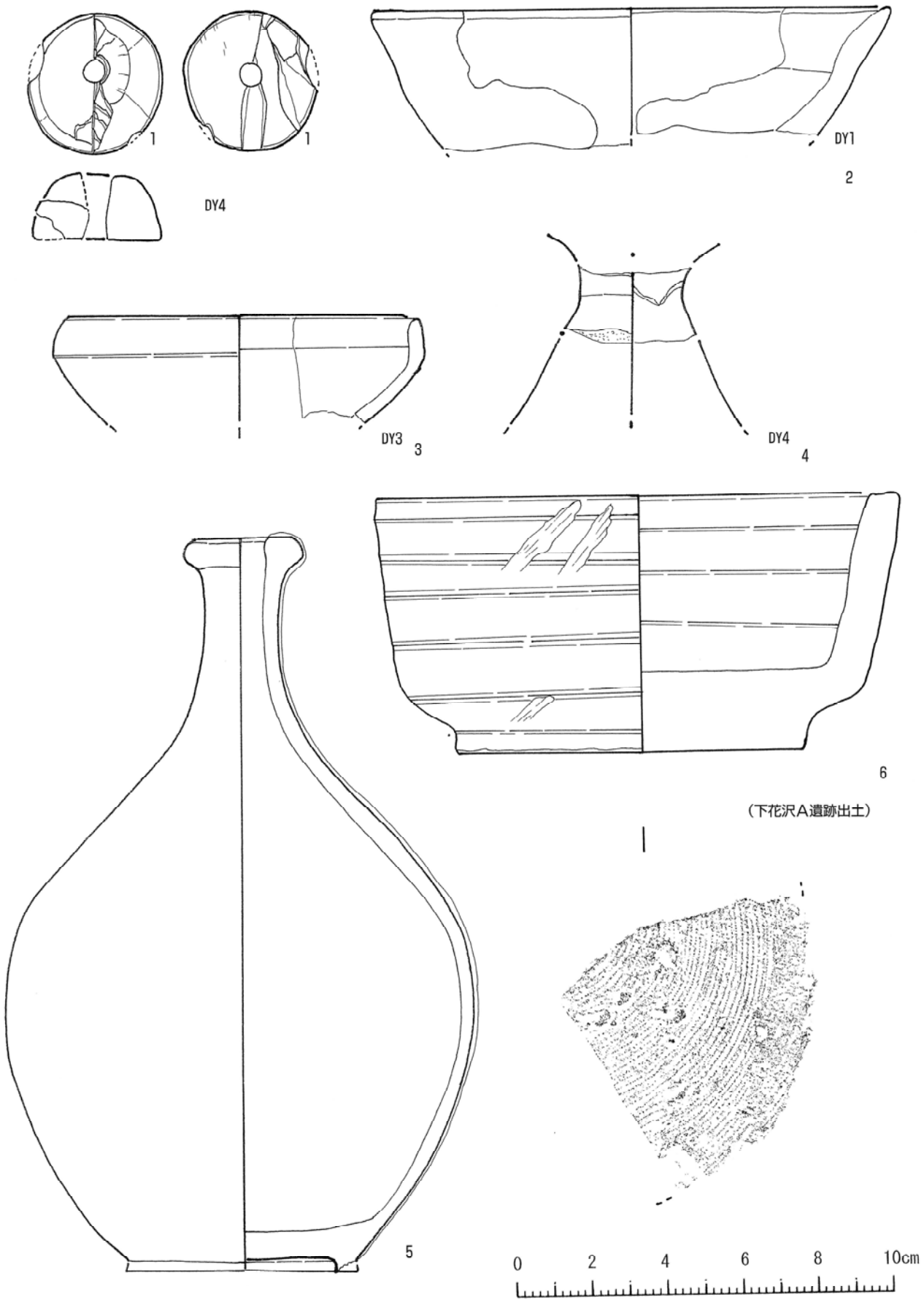
遺跡はその複合扇状地の中央部に位置し、調査地点はこんもりと小高くなっている。

2　調査の経過

平成18年５月30日に届出があった。その後、既存の家の解体が終了した同年の７月31日に試掘調査を実施した結果、遺構、遺物が認められた。また、工法状から削平して建設することもあり、発掘調査を実施するになった。調査範囲は東西13m、南北6.5mの範囲84.5㎡であった。

調査期間は同年８月７日～同年８月15日の延べ９日間を要した。調査区の土質は粘質であり、強い日差しによってヒビ割れ状態になった。（写真図版参照）

第43図　窪田元屋敷遺跡遺構全体図



第44図　窪田元屋敷遺跡他出土遺物実測図

3　検出遺構（第43図）

今回の調査区からは、土壙５基、柱穴14基、ビット６基の総計25基が検出された。これらの遺構群は、出土遺物や覆土、重複関係から古墳時代後期と近世に分類され、前者は４基、後者は21基であった。

古墳時代の遺構（ＤＹ２～５）

方形や楕円形の平面形状を有する土壙群で、東西に並列して確認された。覆土は人工堆積を示す土壙群で、覆土からは石製品、土師器片が出土している。最も東に位置する　ＤＹ２は、南北1.9m、東西1,2mの楕円形の平面形状であり、深さは60㎝ある。覆土から22点の土師器片が出土している。

真ん中のＤＹ３は、南北1.8m、東西1.2mでＤＹ２と同様な形態であるが、長方形に近い平面形状で深さは、56㎝ある。覆土からは21点の土師器片が出土している。第44図３は唯一器形が復元できた破片である。底部は欠損しているが、口縁部の形態から丸底のと考えられる。遺物は古墳時代後期（栗囲式）に併行する。

ＤＹ４は、調査区の西方に確認され南北1.6m、東西1.3m、深さは60㎝ある。西南コーナー箇所の上部面から15㎝下がった箇所から第44図１の滑石製の紡錘車が出土した。他に土師器31点がある。それらの中で同図４は器台の破片である。年代はＤＹ３と同様と考えられる。

ＤＹ５は近世の遺構と重複することから、全容は明確でないが覆土から土師器10点が出土しており、古墳時代後期の土壙と考えられる。底面からは長さ20㎝、厚さ３㎝の木片が出土している。

近世の遺構（ＤＹ１．ＴＹ．Ｐの略号）

掘立柱を構成する柱穴や、礎石を設置するために配された根固め石と考えられる遺構である。出土遺物のなかで第44図５は二次焼成を受けており、火災に遭遇した時期があったと推測される。出土遺物から近世の時期である。建物跡は確認することはできなかった。

4　出土遺物（第44図）

石製品１点、土師器片92点、陶磁器片25点、木製品１点の総計143点であった。大半が破片であり、図示できたのは５点であった。

石製品（第44図１）

滑石を石材に用いた紡錘車であり、底部3.5㎝、厚さは1.5㎝で中央に0.5㎝の穿孔がある。ＤＹ４からの出土であり副葬品と考えられる。

土師器（第44図２～４）

古墳時代の土壙からの出土であった。紡錘車と同様に副葬品として埋納された遺物と考えられる。土質の性質から破片だけの出土であった。器形から判断して古墳時代後期の「栗囲式」に併行するものと考えられる。器形としては、甕、器台、埦がある。

陶磁器（第44図５）

復元したのは徳利だけであった。ナマコ釉を施した大堀相馬焼きであろう。他に平清水

焼の徳利や国産青磁の湯呑み等がある。いずれも近世に位置づけられる。

5　まとめ

第42図で示すように、今回の調査区周辺は古墳時代の遺跡が集中する地域でありこれまでに大形古墳が確認されている。注目されるのは、新たに確認された土壙墓群である。大形古墳は言うまでもなく、首長墓でありそれらを構築した民の墓は確認例が少ないのが現状であった。

今回の発見は、近くに集落の存在も想定され、大形古墳、土壙墓、集落と関連して確認してゆくことによって、置賜地区の古墳時代が解明されると考えられる。その過程において、新たな一ページを加えたと言える。最後に熱い中調査に従事された方々、協力頂きました関係各位に御礼申し上げます。

参　考　文　献

1991　米沢市教育委員会　米沢市埋蔵文化財調査報告書　第31集
　　寶領塚古墳第１次調査報告書

1992　米沢市教育委員会　米沢市埋蔵文化財調査報告書　第34集
　　上新田Ａ遺跡発掘調査報告書　第1集

1998　米沢市教育委員会　米沢市埋蔵文化財調査報告書　第59集
　　大浦Ａ遺跡発掘調査報告書

報 告 書 抄 録

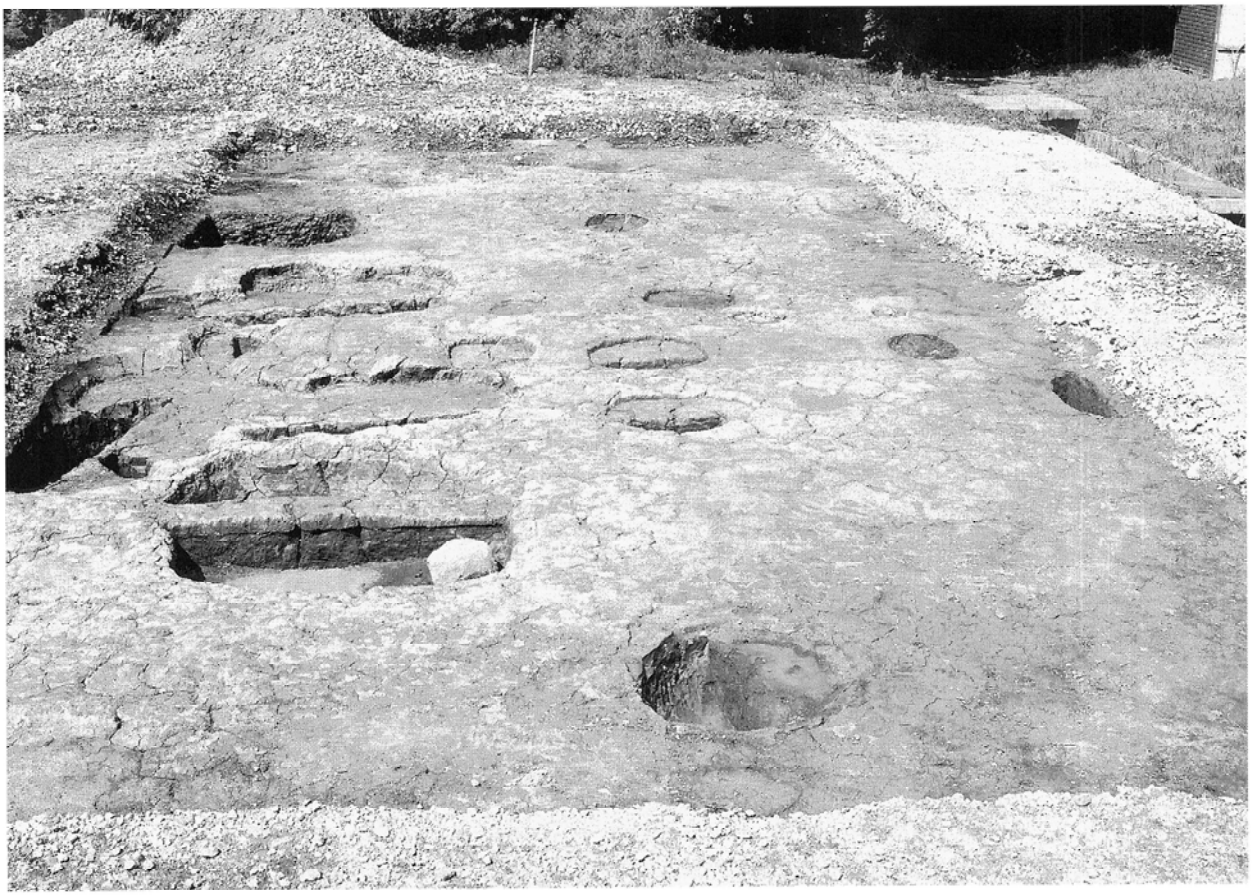
ふりがな	いせきしょうさいぶんぷちょうさほうこくしょ
書名	遺跡詳細分布調査報告書
副書名	
巻次	第20集
シリーズ名	米沢市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第92集
編著者名	菊地政信
編集機関	米沢市教育委員会
所在地	〒992-0012山形県米沢市金池三丁目1-55号　TEL（0238）22-5111
発行年月日	西暦2007年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号					
窪田元屋敷（くぼたもとやしき）	米沢市（よねざわし）窪田町（くぼたまち）	6202	j-512	37度57分26秒	140度7分23秒	20060807～20060815	84.5	住宅建設

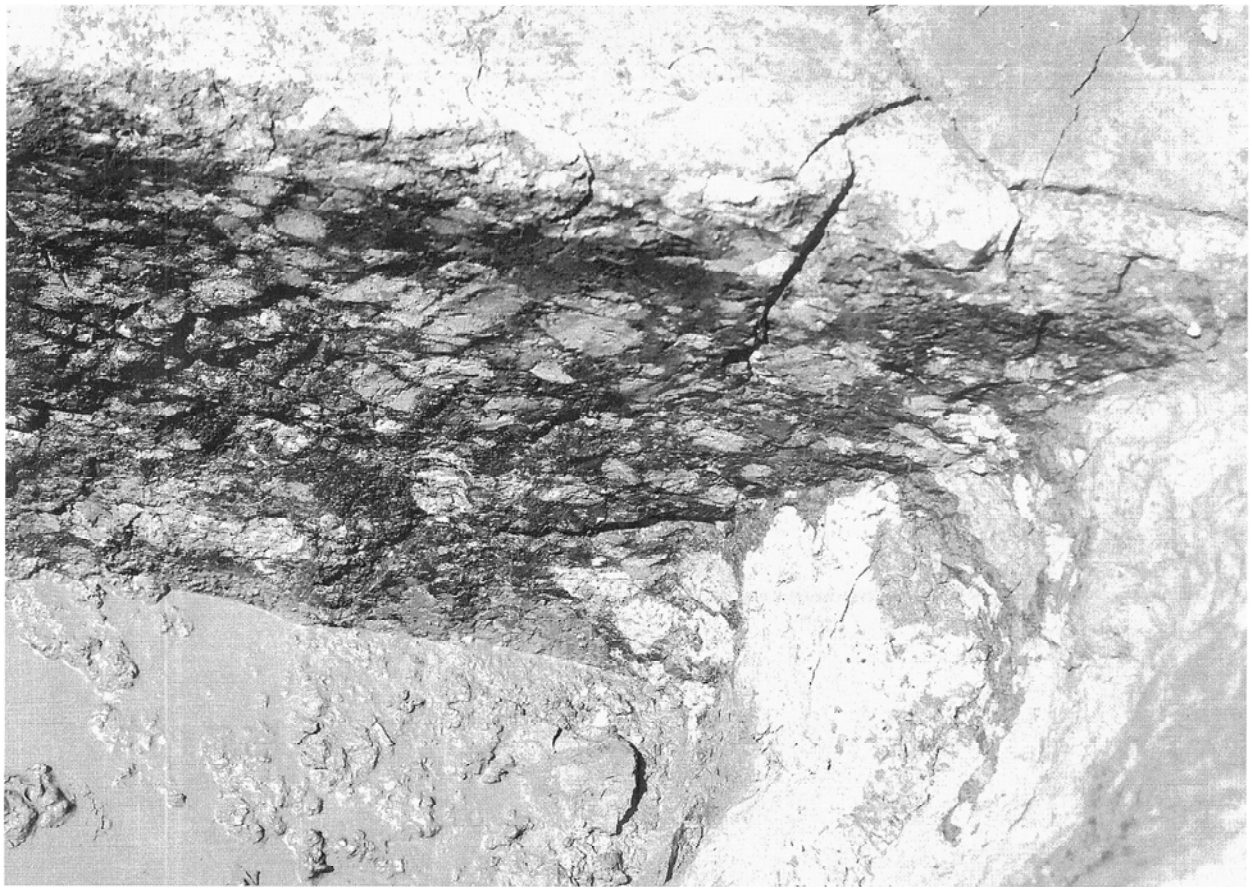
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
窪田元屋敷	墓壙	古墳後期	墓壙	土師器 紡錘車	

写　真　図　版

▲ 調査風景（南東から）



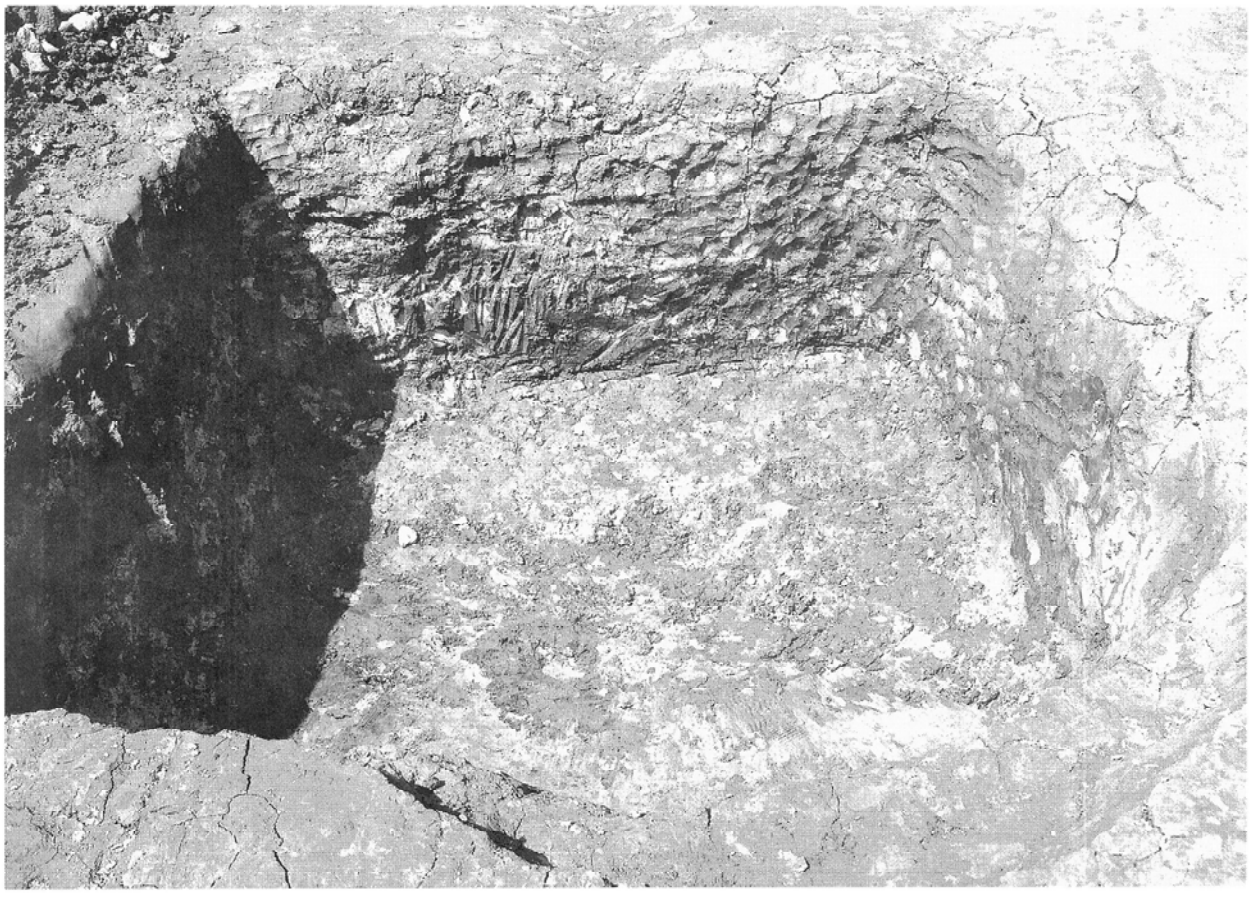
▲ 遺構全景（南東から）



▲ DY５東方部壁立上り状況（東方から）

▲ DY１土師器出土状況（南方から）

▲ DY４半裁状況（東方から）



▲ DY４完掘状況（南方から）

米沢市埋蔵文化財調査報告書　第92集

遺跡詳細分布調査報告書
第20集

平成19年３月29日印刷
平成19年３月31日発行

発　行　米沢市教育委員会
米沢市金池三丁目１－55
TEL（0238）22－5111

印　刷　株式会社 羽陽印刷
米沢市中央三丁目９－22
TEL（0238）23－0467